



阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

平成25年度 年次報告書



センター長ご挨拶



阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
センター長 河田 恵 昭

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターは、阪神・淡路大震災の経験と教訓を広く国内外に発信する施設として、全国、全世界から注目を浴びており、平成14年の開館以来、580万人を超える方々にご利用いただいています。

平成25年度からのセンターの新しい取り組みとしては、内閣府が有明の丘基幹的広域防災拠点施設（東京都江東区）で実施する「防災スペシャリスト養成研修」に対して、研修ノウハウの提供、講師派遣等の支援・協力を行いました。この研修は、国、地方公共団体、指定公共機関の職員を対象として、災害対応業務を遂行する上で必要な知識やスキルの習得を目指すもので、受講者の経験や能力に応じたプログラム構成となっています。

また、センターで実施している災害対策専門研修は、カリキュラムや運営方法の改善を重ねることで、年々研修への信頼性も高まっており、研修受講者は累計で6千人を超え、センターを中心とした研修修了生との人的ネットワークも広がってきました。

防災研究では、中核的研究テーマとして「巨大災害を見据えた社会の災害対応能力の向上」を設定しており、今年度は「東日本大震災の教訓を踏まえたスーパー広域災害における組織マネジメント手法の検討」を中核的研究プロジェクトとして設定し、研究を進めました。

災害資料の展示・活用については、南海トラフ巨大地震に係る各府県の新たな津波想定を踏まえ、津波浸水ハザードマップを更新したほか、被災地の語り継ぎを現場に訪れて学ぶ「災害かたりつぎ研究塾」を開催するとともに、災害の記録を伝える手記、ミュージアム、災害遺構等の媒体をテーマとした7回シリーズの公開セミナー「災害ミュージアム研究塾」を実施しました。

さらに、ミッションを達成するための第2期中期目標（ビジョン）及び中期計画（ガイドライン）が平成25年度末で終了することから、平成26年4月からの4年間を期間とした第3期中期目標・中期計画を策定しました。

今後もミッション及び中期目標・中期計画に基づいて、着実に積み重ねてきたこれまでの成果を生かし、世界的な防災研究の拠点として、減災社会の実現に貢献していくとともに、平成26年度は、阪神・淡路大震災から20周年を迎えるため、職員一丸となって事業の推進に努めてまいります。

関係各位のお力添えに感謝いたしますとともに、今後ともさらなるご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

人と防災未来センターのミッション

阪神・淡路大震災の経験を語り継ぎ、その教訓を未来に活かすことを通じて、災害文化の形成、地域防災力の向上、防災政策の開発支援を図り、安全・安心な市民協働・減災社会の実現に貢献する。

このため、震災の展示を通じて防災の重要性や共に生きることの大切さを広く市民に訴える。また、実践的な防災研究や防災を担う人材の育成、災害対応の現地支援、多様なネットワークを通じた連携などを、展示を含め一体のものとして推進し、知恵や情報の効果的な創出と体系化を進め、共有を促進する。

事業ごとのサブ・ミッション

展示

被災者・市民・ボランティアなど多くの人々の協力と連携のもと、阪神・淡路大震災の経験や教訓をわかりやすく展示し、世界の市民や未来を担う子ども達に効果的に情報発信することにより、市民・来館者一人ひとりが、防災・減災の重要性やいのちの尊さ、共に生きることの大切さなどを真摯に受け止め、共に考え、学ぶことを促進する。

資料収集・保存

阪神・淡路大震災の記憶を風化させることなく、被災者の想いと震災の教訓を資産として共有し次世代へ継承するため、被災地において地域社会と関わりを保ちながら震災や防災に関する資料を継続的に収集・蓄積し、データベース化する。そして、防災情報を市民にわかりやすい形で整理し、発信する。

実践的な防災研究

阪神・淡路大震災の経験と教訓、学術的な知見や蓄積された研究成果に基づき、我が国の防災上の課題を的確にとらえ、政府・地方自治体・コミュニティ・企業などの防災政策や災害対策の立案・推進に資する実践的な防災研究を実施する。そして、知の新たな体系化と、その学術的価値の確立を先導する。

災害対策専門職員の育成

阪神・淡路大震災の経験を具体的に伝えとともに、最新の研究成果を踏まえ、防災に関する実践的知識や技術を体系的・総合的に提供することにより、地方自治体の防災担当職員など災害対策実務の中核を担う人材を育成する。そして、これを通じて関係各組織の災害対応能力の向上に貢献する。

若手防災専門家の育成

阪神・淡路大震災の経験と教訓に精通し、実践的な防災研究を推進する高い能力を備え、社会の防災力向上に向けて常に思考し働きかけることのできる行動力や、災害の諸様相に関する確かな想像力を有し、将来それぞれの立場や観点で防災を牽引することが期待される若手防災専門家を育成する。



災害対応の現地支援

大規模災害時に、災害対応の実践的・体系的な知識を有する人材を災害対策本部等に派遣し、災害対応を統括する者に適切な情報提供や助言を行い、被災地の被害軽減と復旧・復興に貢献する。また、所要の知見の蓄積・体系化や派遣体制の整備、本活動の浸透に向けた社会的な環境の醸成に努める。

交流ネットワーク

阪神・淡路大震災や防災に関わる行政実務者・研究者・市民・企業など多様なネットワークの交差点となり、様々な知恵や人材の出会いと、国内外の連携の場となることを通じて、社会の防災力向上のための取り組みを促進する。

平成 25 年度を振り返って

人と防災未来センターでは、センターのミッションを踏まえ、事業ごとのサブ・ミッションをさらに具体化し、概ね 4 年間（期間：平成 22 ～ 25 年度）に達成すべき業務運営に関する「ビジョン（中期目標）」及び「ガイドライン（中期計画）」を策定し、これに基づいて事業を推進している。

平成 26 年 3 月に、これらを改定し第 3 期中期目標及び中期計画（期間：平成 26 ～ 29 年度）を策定した。

1. 展示

阪神・淡路大震災の展示を通じて、防災・減災の重要性などを伝える人と防災未来センターには、毎年国内外から約 50 万人の方々を訪れている。開設以降の利用者は、平成 25 年 8 月には延べ 550 万人を超え、平成 25 年度末には約 585 万人に達した。

展示内容については、東日本大震災を踏まえて、3D ドキュメンタリー映像「東日本大震災 津波の傷跡」の内容を更新して引き続き上映するとともに、南海トラフ巨大地震への備えに関する展示の常設化、関係府県の新たな津波想定に応じた津波浸水ハザードマップ（タッチパネル）の更新を行った。また、海外の観覧者が展示内容を理解できるよう、「記憶の壁」展示に英語キャプションを追加した。

このほか、JAMSTEC 展 2013「海からわかる地震と津波～防災研究最前線！～」、「大槌町定点観測展」、「ひとぼう減災セミナー 2014」、コンサート「希望が花咲く日ー東日本大震災へ想いを馳せるー」など南海トラフ巨大地震や東日本大震災復興支援をテーマとする企画展、イベント等を年間を通じて実施した。

また、センターを利用する団体を対象として、ボランティアの語り部による講話（被災体験）や研究員による防災セミナー（小・中学生対象）を引き続き実施している。

2. 資料収集・保存

引き続き震災資料の収集整理活動を進めるとともに、震災資料をさらに活用するため、センター内での企画展や資料室ニュースで震災資料紹介を行った。また、他の震災資料保存機関との相互連携を進め、資料横断検索の更新を行うとともに、震災資料に関する研究会等において、資料室業務の課題および震災資料の活用に関する発表を行うなど他機関との交流を図った。また、震災資料の維持保存を図るため、資料に応じた保存環境の整備を進めた。なお、本年度は、研究部と共同で全 7 回の「災害ミュージアム研究塾」、全 3 回の「災害かたりつぎ研究塾」を実施し、全国各地の災害ミュージアムや、災害資料のアーカイブ機関とのネットワークを構築した。

3. 実践的な防災研究と若手防災専門家の育成

研究部では、研究活動のガイドラインに基づき、各研究員の調査研究活動、重点研究領域に関する中核的研究プロジェクト、7つの特定研究プロジェクトをはじめとした実践的な防災研究を推進した。研究成果は、DRI 調査レポートとして研究者のみならず、政府・自治体の防災・減災担当者やマスコミ関係者等多くの人々と共有している。

特に、中核的研究プロジェクトについては、「巨大災害を見据えた社会の対応能力の向上」の 3 年目であり、平成 25 年度は「東日本大震災の教訓を踏まえたスーパー広域災害にお

ける組織マネジメント手法の検討」をテーマに、いわゆる想定を超えるような巨大災害が発生した際においても、自治体の災害対策本部が、機動的に柔軟性を持って対応できるよう、対策本部事務局員となる防災部署の職員が行うべき具体的な組織運営マネジメント手法について検討した。3月に開催した自治体の防災担当部局職員等によるワークショップにおいて、検討成果を報告するとともに、その知見を自治体職員等に普及を図る研修手法として試作したロールプレイング形式の模擬調整会議を実施し、参加自治体職員からの今後の研究活動に向けたフィードバックを得た。

4. 災害対策専門職員の育成

平成25年度から内閣府は、国、地方公共団体、指定公共機関の職員を対象として、災害対応業務を遂行する上で必要な知識やスキルを習得する「防災スペシャリスト養成研修」事業を新たに開始した。人と防災未来センターは、明治大学、株式会社サイエンスクラフトと共同で、内閣府から同事業を受託することとなり、内閣府の有明の丘基幹的広域防災施設（東京都江東区有明）を会場にして研修を実施した。初年度は、関東地方の東京都、埼玉県、神奈川県、千葉県を中心に、北海道から沖縄県（国地方機関）まで全国各地の国、都道府県、市区町村職員、指定公共機関から300人を超える参加があった。

センター創設以来実施している「災害対策専門研修」については、センター研究員等のコーディネートによりセンター独自のノウハウと最新の知見を取り入れたカリキュラム構成とするとともに、運営方法の改善を積み重ねることで、受講者から高い評価を得ることができた。

「トップフォーラム」を山形県、岐阜県及び福岡県で実施し、参加者からは、「実践的で参考になった。」「市民への情報伝達の方法、発信方法についてのシミュレーションができて大変良かった。」等の評価を得た。

「マネジメントコース」については、北海道から沖縄県まで全国各地から参加があった。受講者からは「全般的に実践的な講義が多く、明日からでも職場に還元していきたい」「各講師の方から防災・減災を進めていきたいという強い意志を感じた」「事前対策・防災・減災など多方面から防災を考える機会となった」等好評を博した。

特設コースの「図上訓練を用いた災害対策本部運営・広報コース」については、受講者からは、「災害対応と広報は、今まで別の問題と思っていましたが、互いに連携することの大切さを理解することができました」「事前の予測等を行い、それに基づき準備していくことが事務的には非常に重要で、それが初動対応や方針決定等に影響を及ぼすことを実感した」等の評価を得た。

また、平成25年度より、DisasterManager（災害対策専門研修エキスパートコース修了者）を対象にして、演習のファシリテーターなど、研修補助の役割を担う「災害対策専門研修サポーター制度」を設け、研修の充実と受講者相互の人的ネットワークの構築に寄与した。

さらに、JICA 四国から委託を受けて「総合防災行政（B）」コースの研修を実施した。各自治体等の取り組みを視察するほか、防災に関する講義、演習等を行った。参加者からは「多くの種類の災害とそれに対する対策を自治体等が行ってきたことがわかり、日本の取り組みを参考として、自国において防災対策を改善したい。」等の意見が多くあった。

5. 災害対応の現地支援

平成 25 年 4 月に発生した「淡路島付近を震源とする地震」を始め、平成 25 年 7 月「山口・島根豪雨」、平成 25 年 9 月「台風 18 号」、平成 25 年 10 月「伊豆大島土砂災害」、平成 25 年 11 月「台風 30 号（フィリピン）」及び平成 26 年 2 月「平成 26 年豪雪（山梨県）」の国内外 6 つの災害現場に研究員等を派遣し、被害及び災害対応の状況等の調査を行い、「D R I 調査レポート」として、情報発信した。

6. 交流ネットワーク

国連の国際防災の日（2013）のテーマ「障害とともに生きる人々と災害」と連動して、関係省庁、兵庫県、D R A 参加機関による国際防災・人道支援フォーラム実行委員会を結成し、「災害時要援護者への支援に求められるもの」をテーマに国際会議を平成 26 年 1 月 20 日にポートピアホテルで開催した。国内外の防災専門家や行政職員、一般県民等の約 200 名の参加があった。

また、「伝えるひと伝えること」を全体テーマとして、「災害メモリアル K O B E 2014」を開催した。1 月 11 日に人と防災未来センター西館 1 階を会場に、神戸市立兵庫中学校（11 月 26 日）と神戸市立福池小学校（12 月 6 日）で実施した防災に関する特別授業に関する作文を 29 名の生徒児童から発表、東日本大震災で壊滅的な被害を受けた宮城県女川町立女川中学校の生徒を招いて震災を語り継ぐことの事例発表、パネルディスカッションを開催した。

センター友の会の活動では、引き続き東日本大震災被災地の仮設住宅への物資の提供等の支援を行ったほか、「徳島県立防災センター」（徳島県板野郡北島町）の見学やセンター主催事業への参加を行った。

さらに、センターの役割や魅力をより効果的に情報発信するとともに、施設利用に関する情報をわかりやすく発信するため、平成 26 年 3 月にセンターのホームページをリニューアルした。

また、防災教育の推進と安全で安心な社会づくりを目指した 1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」を兵庫県、毎日新聞社と共催し、児童・生徒等が主体的に取り組む先進的な防災活動を顕彰した。

ひょうご震災記念 21 世紀研究機構ニュース「Hem21」に人と防災未来センターニュース「MiRAi」を 3 ページ設け、6 回情報発信したほか、メールマガジンを発行し情報発信を行った。

人と防災未来センター平成 25 年度年次報告書 目次

センター長ご挨拶

人と防災未来センターのミッション、事業ごとのサブ・ミッション

平成 25 年度を振り返って

I 章 展示

1 節	利用者の動向	2
2 節	常設展示の概要	17
3 節	企画展の概要	29
4 節	運営ボランティアの活動等	52
5 節	VIP 等の視察対応	55

II 章 資料収集・保存

1 節	資料収集と整理	58
2 節	資料室における相談業務・情報発信	61
3 節	震災資料の活用	65
4 節	資料を通じた交流・ネットワーク	67

III 章 実践的な防災研究と若手防災専門家の育成

1 節	実践的な防災研究と若手防災専門家育成の考え方について	72
2 節	研究員の取り組み	74
3 節	中核的研究プロジェクトおよび特定研究プロジェクトの推進について	120
4 節	研究員等の多彩な活動	129
5 節	研究調査員の取り組み	132
6 節	研究成果の発信	134

IV 章 災害対策専門職員の育成

1 節	災害対策専門研修	138
2 節	フォローアップセミナー	147
3 節	国際協力機構（JICA）からの受託研修	148
4 節	防災スペシャリスト養成研修（有明の丘研修事業）	149

V 章 災害対応の現地支援

1 節	平成 25 年度災害対応の現地支援のしくみ	154
2 節	災害対応の現地支援	155

VI章 交流・ネットワーク

1 節 国際防災・人道支援協議会の活動	160
2 節 友の会	165
3 節 情報発信	166

VII章 事業評価委員会

1 節 事業評価委員会	176
-------------	-----

参考資料

資料 1 整備の趣旨・目的	178
資料 2 施設概要	180
資料 3 沿革	181
資料 4 組織	183
資料 5 平成 25 年度人と防災未来センター特別会計収支予算書	184
資料 6 資料室のあらまし	185
(1) 資料室の概要	
(2) 震災資料の収集・保存事業の経緯	
(3) 資料室受け入れ図書件数、資料点数、閲覧件数	
(4) 人と防災未来センターにおける調査の流れと データベース（資料点数）の関連	
資料 7 新聞記事がとりあげた人と防災未来センター	192
資料 8 研修カリキュラム表	193
資料 9 センター刊行物	205

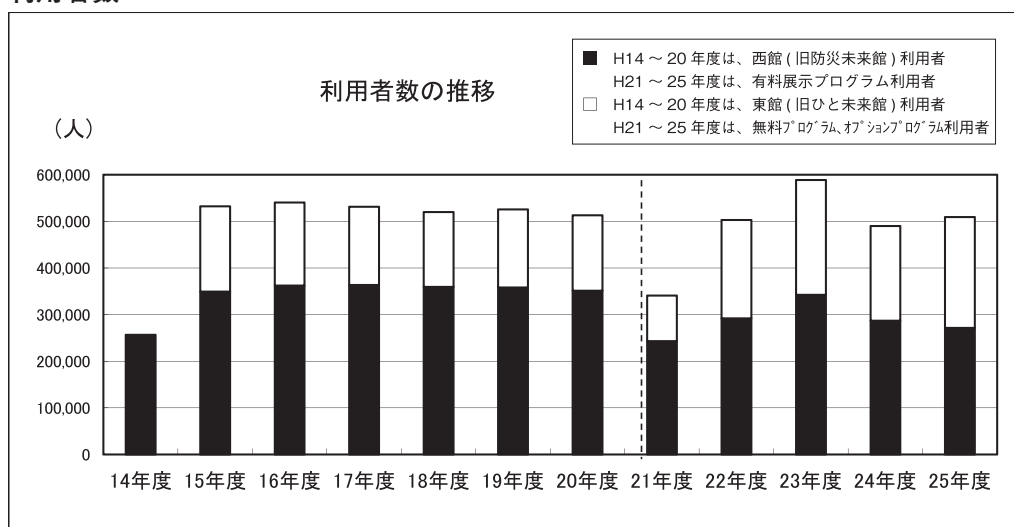
I 章 展示

- 1 利用者の動向
- 2 常設展示の概要
- 3 企画展の概要
- 4 運営ボランティアの活動等
- 5 VIP 等の視察対応

I 章 展示

1 節 利用者の動向

1 利用者数



〔平成 14～20 年度〕

	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	小計(H14-20)
利用者数(人)	256,789	532,173	540,622	531,485	520,016	525,624	513,092	3,419,801
西館(旧防災未来館)	256,789	349,584	362,409	363,516	359,571	358,163	351,263	2,401,295
東館(旧ひと未来館)	—	182,589	178,213	167,969	160,445	167,461	161,829	1,018,506
1日平均利用者数(人)	870	1,700	1,733	1,703	1,646	1,679	1,639	1,573
西館(旧防災未来館)	870	1,117	1,162	1,165	1,138	1,144	1,122	1,105
東館(旧ひと未来館)	—	583	571	538	508	535	517	468
営業日数(日)	295	313	312	312	316	313	313	2,174

〔平成 21～25 年度〕

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	小計(H21-25)	合計(H14-25)
利用者数(人)	341,010	502,865	588,731	490,131	509,206	2,431,943	5,851,744
有料展示プログラム	243,134	292,092	342,507	286,915	271,426	1,436,074	
無料・オプションプログラム	97,876	210,773	246,224	203,216	237,780	995,869	
1日平均利用者数(人)	1,111	1,612	1,881	1,566	1,637	1,563	1,569
有料展示プログラム	792	936	1,094	917	873	923	
無料・オプションプログラム	319	676	787	649	765	640	
営業日数(日)	307	312	313	313	311	1,556	3,730

「利用者数」

※平成14年度の利用者数は防災未来館のみの利用者数。

平成14年4月27日 西館(旧防災未来館)オープン

平成15年4月26日 東館(旧ひと未来館)オープン(グランドオープン)

※平成15～20年度の利用者数は、西館(旧防災未来館)、東館(旧ひと未来館)それぞれの利用者数の合計数。

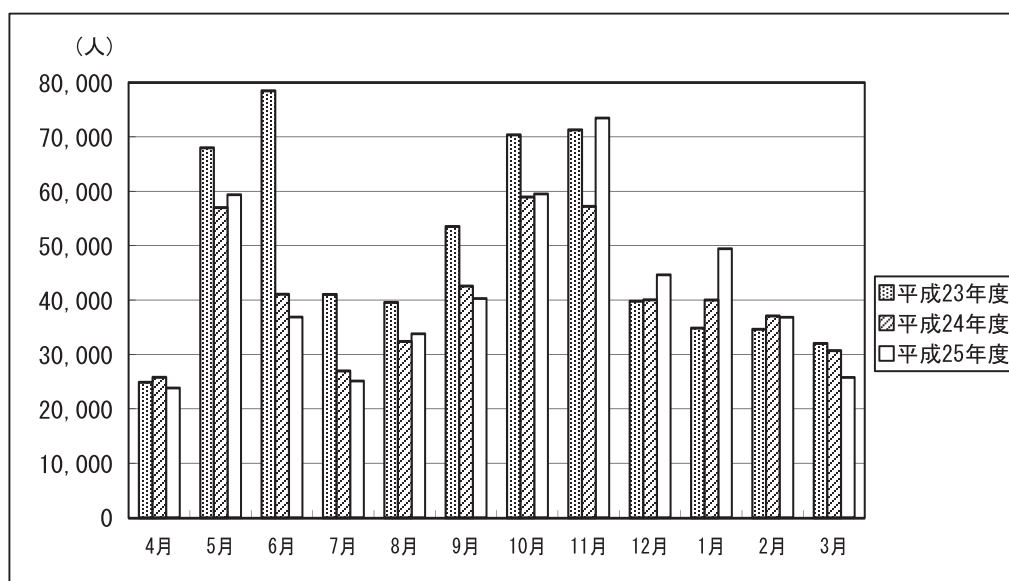
※平成21年度以降の利用者数は、有料展示プログラム利用者数に加え、資料室利用や各種の研修・ワークショップ・セミナー・イベント参加等の無料プログラムの利用者数及びこころのシアター利用等のオプションプログラムの利用者数の合計数。

(料金体系の変更、無料プログラムの増大等に伴い、利用者数算定の方法を、館区分別から有料・無料等プログラム区分別に変更。)

- ・平成21年度の利用者数が大幅に少ないのは、新型インフルエンザの兵庫県内発生による予約キャンセルや、その後の全国的なまん延による出控え、旅行自粛等の影響と考えられる。
- ・平成23年度の利用者数が増加しているのは、東日本大震災（H23.3.11）を機に、防災に対する関心が高まったこと、特に中部圏の学校等の団体が、震災等の影響で旅行先を関東から関西方面に変更したこと等によるものと考えられる。
- ・平成25年度の利用者数（無料のイベント参加等を含む）は509,206人（うち有料展示プログラム271,426人）で、前年度（平成24年度）に比べ103.9%（有料展示プログラムについては94.6%）となっている。

2 利用者の月別状況

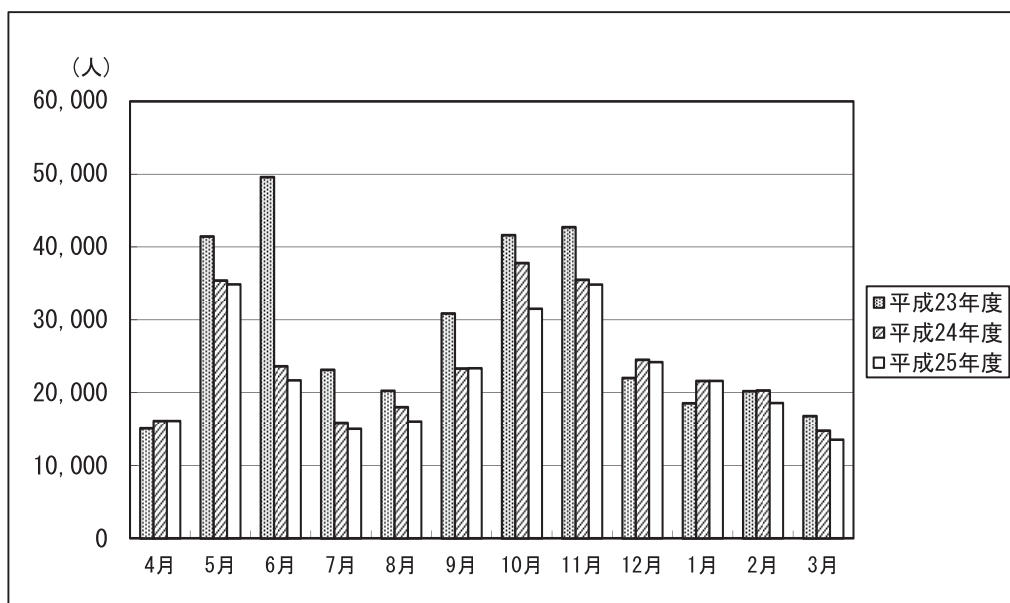
(1) 利用者全体



(単位: 人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成14年度	4,512	27,626	25,056	19,762	18,435	23,141	37,616	36,244	13,238	16,952	18,380	15,827	256,789
平成15年度	19,690	56,046	49,018	42,526	39,324	40,887	75,822	70,871	28,463	33,412	37,907	38,207	532,173
平成16年度	30,251	60,068	43,598	34,698	38,540	36,154	67,234	67,857	32,749	45,242	42,610	41,621	540,622
平成17年度	32,301	58,348	46,947	35,495	34,731	45,972	71,306	72,367	29,237	32,430	37,505	34,846	531,485
平成18年度	31,175	57,664	42,676	32,524	35,361	43,656	72,918	75,236	28,027	34,605	34,715	31,459	520,016
平成19年度	28,983	62,099	43,890	27,626	35,943	42,644	75,466	76,403	30,189	39,949	35,461	26,971	525,624
平成20年度	27,656	60,722	45,097	29,446	33,088	39,862	79,334	70,953	29,024	38,846	33,548	25,516	513,092
平成21年度	22,627	20,918	11,928	21,257	19,932	31,053	49,590	39,338	29,685	41,611	31,100	21,971	341,010
平成22年度	28,198	53,336	45,600	31,448	35,405	40,120	62,536	59,809	41,134	37,676	39,310	28,293	502,865
平成23年度	24,893	68,035	78,503	41,048	39,611	53,558	70,397	71,320	39,811	34,856	34,648	32,051	588,731
平成24年度	25,824	57,044	41,098	27,001	32,405	42,609	58,966	57,252	40,052	40,027	37,113	30,740	490,131
平成25年度	23,844	59,377	36,902	25,139	33,822	40,318	59,530	73,484	44,648	49,463	36,867	25,812	509,206

(2) 有料展示プログラム利用者のみ



(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成23年度	15,122	41,458	49,617	23,151	20,258	30,902	41,641	42,753	22,026	18,563	20,215	16,801	342,507
平成24年度	16,109	35,411	23,645	15,833	18,022	23,330	37,812	35,504	24,527	21,616	20,316	14,790	286,915
平成25年度	16,104	34,879	21,701	15,054	16,034	23,345	31,529	34,841	24,194	21,621	18,576	13,548	271,426

・平成 25 年度は例年と同様に、修学旅行等のシーズンである 5～6 月及び 10～11 月が多い。

3 観覧者（有料展示プログラム利用者）の区分別状況

「観覧者」

※利用者のうち有料展示プログラム利用者を指す。（発券記録等を基にして「団体予約」・「個人」の 2 区分ごと、また「大人」・「高校・大学生」・「小・中学生等」の 3 区分ごとに集計。）

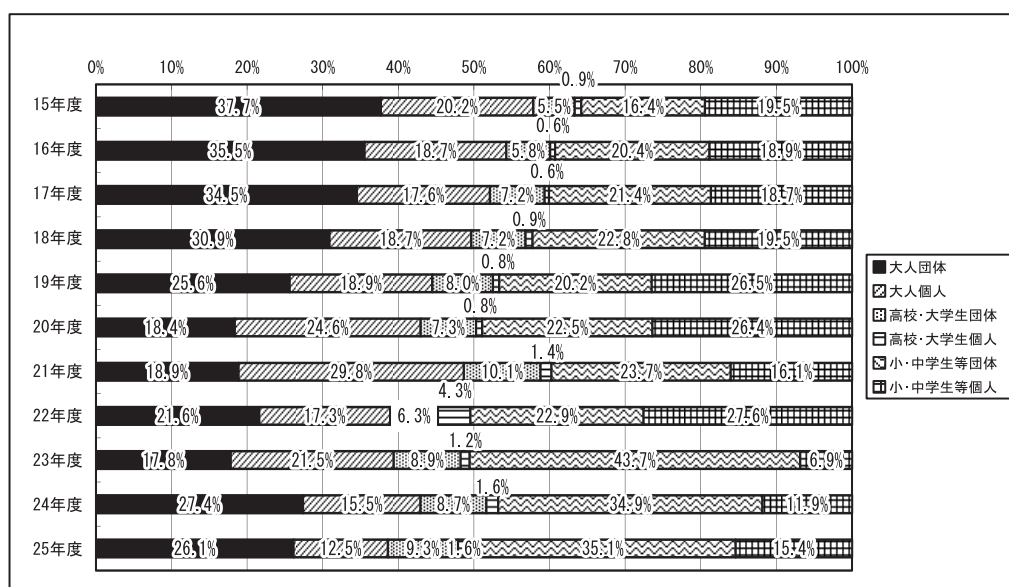
(上段：人数)

(下段：構成比率)

区 分	団体予約											
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
大 人	—	200,525 37.7%	192,071 35.5%	183,423 34.5%	160,634 30.9%	134,627 25.6%	94,263 18.4%	45,846 18.9%	63,106 21.6%	61,080 17.8%	78,645 27.4%	70,932 26.1%
高校・ 大学生	—	29,178 5.5%	31,365 5.8%	38,365 7.2%	37,287 7.2%	42,206 8.0%	37,584 7.3%	24,668 10.1%	18,514 6.3%	30,343 8.9%	24,993 8.7%	25,173 9.3%
小・中学生 等	—	87,054 16.4%	110,397 20.4%	113,779 21.4%	118,431 22.8%	105,972 20.2%	115,542 22.5%	57,633 23.7%	66,895 22.9%	149,687 43.7%	100,246 34.9%	95,308 35.1%
計	0 0.0%	316,757 59.5%	333,833 61.7%	335,567 63.1%	316,352 60.8%	282,805 53.8%	247,389 48.2%	128,147 52.7%	148,515 50.8%	241,110 70.4%	203,884 71.1%	191,413 70.5%

区 分	個人											
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
大 人	—	107,283 20.2%	101,311 18.7%	93,517 17.6%	97,494 18.7%	99,162 18.9%	126,037 24.6%	72,437 29.8%	50,493 17.3%	73,769 21.5%	44,495 15.5%	33,850 12.5%
高校・ 大学生	—	4,589 0.9%	3,467 0.6%	3,161 0.6%	4,855 0.9%	4,307 0.8%	4,175 0.8%	3,514 1.4%	12,511 4.3%	4,054 1.2%	4,510 1.6%	4,361 1.6%
小・中学生 等	—	103,544 19.5%	102,011 18.9%	99,240 18.7%	101,315 19.5%	139,350 26.5%	135,491 26.4%	39,036 16.1%	80,573 27.6%	23,574 6.9%	34,026 11.9%	41,802 15.4%
計	109,274 42.6%	215,416 40.5%	206,789 38.3%	195,918 36.9%	203,664 39.2%	242,819 46.2%	265,703 51.8%	114,987 47.3%	143,577 49.2%	101,397 29.6%	83,031 28.9%	80,013 29.5%

区 分	合計											
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
大 人	—	307,808 57.8%	293,382 54.3%	276,940 52.1%	258,128 49.6%	233,789 44.5%	220,300 42.9%	118,283 48.6%	113,599 38.9%	134,849 39.4%	123,140 42.9%	104,782 38.6%
高校・ 大学生	—	33,767 6.3%	34,832 6.4%	41,526 7.8%	42,142 8.1%	46,513 8.8%	41,759 8.1%	28,182 11.6%	31,025 10.6%	34,397 10.0%	29,503 10.3%	29,534 10.9%
小・中学生 等	—	190,598 35.8%	212,408 39.3%	213,019 40.1%	219,746 42.3%	245,322 46.7%	251,033 48.9%	96,669 39.8%	147,468 50.5%	173,261 50.6%	134,272 46.8%	137,110 50.5%
計	256,789 100.0%	532,173 100.0%	540,622 100.0%	531,485 100.0%	520,016 100.0%	525,624 100.0%	513,092 100.0%	243,134 100.0%	292,092 100.0%	342,507 100.0%	286,915 100.0%	271,426 100.0%



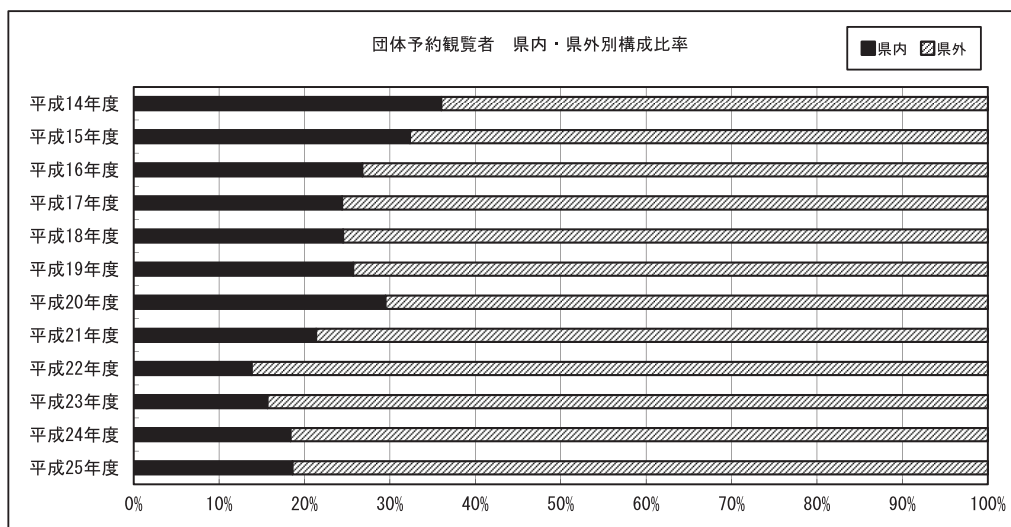
- ・平成25年度は、「団体予約」・「個人」別では、「団体予約」が70.5%で、3年連続で70.0%を超えている。
- ・「大人」・「高校・大学生」・「小・中学生等」別では、「小・中学生等」が50.5%で約半数を占め、「高校・大学生」を含めると全体の61.4%となっている。

4 団体予約観覧者（有料展示プログラム利用者）の状況

「団体予約観覧者」

※観覧者のうち団体予約による者を指す。（観覧予約申込書を基にして地域ごと、団体種類ごとに集計。）

(1) 県内・県外別

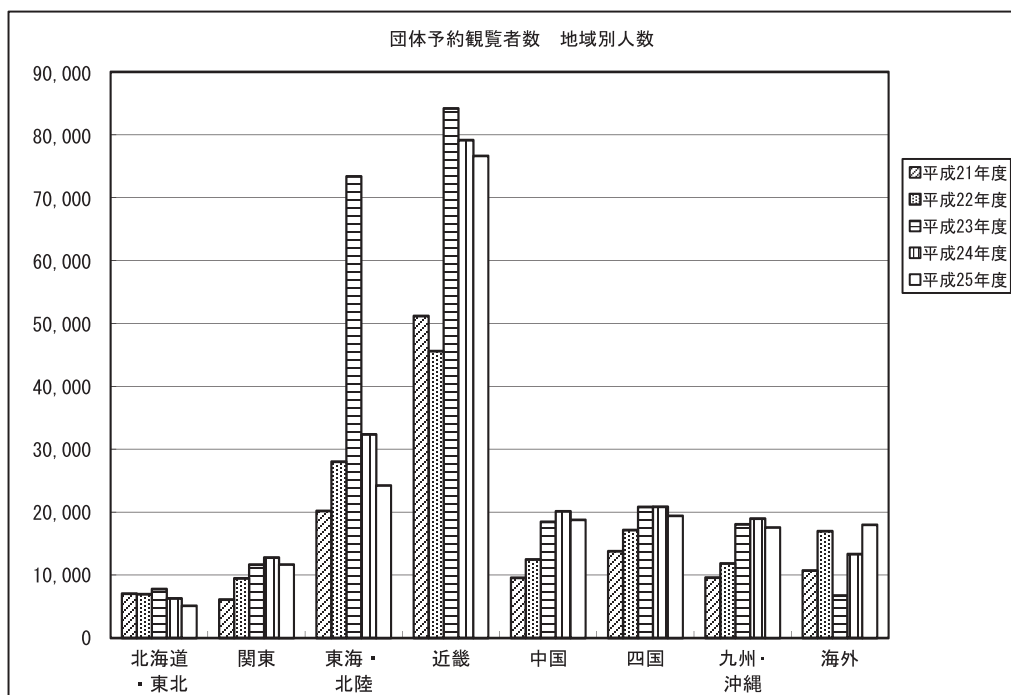


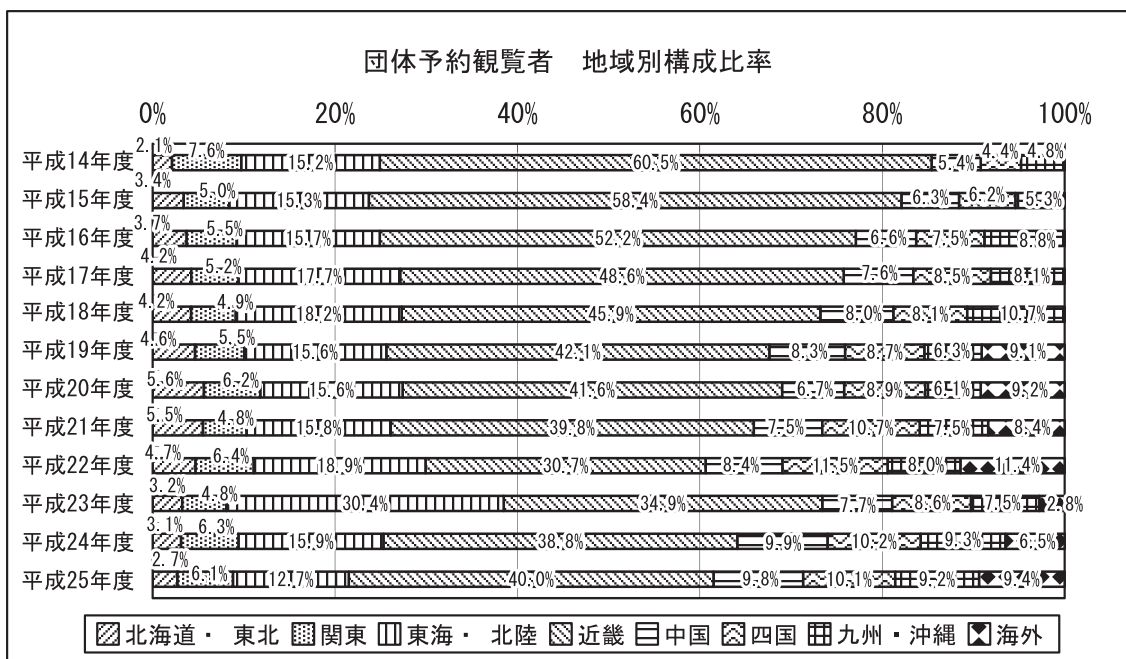
(単位：人)

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
県内	53,110	102,424	89,331	81,839	77,537	72,640	72,906	27,367	20,530	37,757	37,429	35,583
構成比	36.0%	32.3%	26.8%	24.4%	24.5%	25.7%	29.5%	21.4%	13.8%	15.7%	18.4%	18.6%
県外	94,405	214,333	244,502	253,728	238,815	210,165	174,483	100,780	127,985	203,353	166,455	155,830
構成比	64.0%	67.7%	73.2%	75.6%	75.5%	74.3%	70.5%	78.6%	86.2%	84.3%	81.6%	81.4%
合計	147,515	316,757	333,833	335,567	316,352	282,805	247,389	128,147	148,515	241,110	203,884	191,413
構成比	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

・平成25年度は、「県外」が81.4%で、前年度と同様に80%を超えている。

(2) 地域（ブロック）別





(上段：人数)

(下段：構成比率)

	北海道・東北	関東	東海・北陸	近畿	中国	四国	九州・沖縄	海外	計
平成14年度	3,139	11,153	22,462	89,275	7,970	6,477	7,039	—	147,515
	2.1%	7.6%	15.2%	60.5%	5.4%	4.4%	4.8%	—	100.0%
平成15年度	10,917	15,740	48,530	184,974	20,017	19,741	16,838	—	316,757
	3.4%	5.0%	15.3%	58.4%	6.3%	6.2%	5.3%	—	100.0%
平成16年度	12,185	18,322	52,312	174,333	22,175	25,196	29,310	—	333,833
	3.7%	5.5%	15.7%	52.2%	6.6%	7.5%	8.8%	—	100.0%
平成17年度	13,949	17,551	59,368	163,183	25,597	28,617	27,302	—	335,567
	4.2%	5.2%	17.7%	48.6%	7.6%	8.5%	8.1%	—	100.0%
平成18年度	13,350	15,406	57,608	145,237	25,403	25,625	33,723	—	316,352
	4.2%	4.9%	18.2%	45.9%	8.0%	8.1%	10.7%	—	100.0%
平成19年度	12,895	15,568	44,059	118,946	23,422	24,536	17,768	25,611	282,805
	4.6%	5.5%	15.6%	42.1%	8.3%	8.7%	6.3%	9.1%	100.0%
平成20年度	13,906	15,332	38,636	102,705	16,464	21,982	15,042	22,823	247,389
	5.6%	6.2%	15.6%	41.5%	6.7%	8.9%	6.1%	9.2%	100.0%
平成21年度	7,030	6,097	20,185	51,184	9,576	13,774	9,581	10,720	128,147
	5.5%	4.8%	15.8%	39.9%	7.5%	10.7%	7.5%	8.4%	100.0%
平成22年度	6,951	9,475	28,019	45,590	12,493	17,150	11,854	16,983	148,515
	4.7%	6.4%	18.9%	30.7%	8.4%	11.5%	8.0%	11.4%	100.0%
平成23年度	7,780	11,661	73,382	84,186	18,452	20,838	18,068	6,743	241,110
	3.2%	4.8%	30.4%	34.9%	7.7%	8.6%	7.5%	2.8%	100.0%
平成24年度	6,288	12,784	32,363	79,159	20,144	20,850	18,965	13,331	203,884
	3.1%	6.3%	15.9%	38.8%	9.9%	10.2%	9.3%	6.5%	100.0%
平成25年度	5,108	11,669	24,234	76,636	18,793	19,418	17,562	17,993	191,413
	2.7%	6.1%	12.7%	40.0%	9.8%	10.1%	9.2%	9.4%	100.0%

・平成25年度は、「近畿」が76,636人、構成比40.0%で最も多いが、長期的に見ると減少傾向にある。

・前年度と比べて「海外」が増加している。

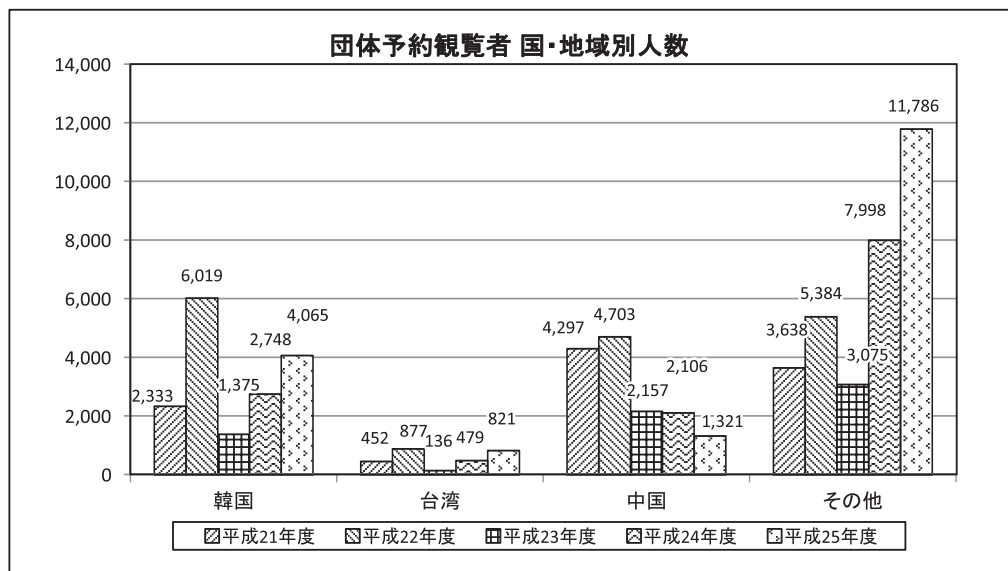
(3) 都道府県別

(単位：人)

ランキング	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
1	兵庫県	兵庫県	兵庫県	兵庫県	兵庫県	兵庫県	兵庫県	兵庫県	兵庫県	兵庫県	兵庫県	兵庫県
	53,110	102,424	89,331	81,839	77,537	72,640	72,906	27,367	20,530	40,934	37,429	35,583
2	大阪府	大阪府	大阪府	大阪府	大阪府	海外	海外	大阪府	海外	愛知県	大阪府	大阪府
	19,918	37,164	38,219	38,223	28,549	25,611	22,823	11,011	16,983	38,063	21,164	22,376
3	愛知県	愛知県	愛知県	愛知県	愛知県	大阪府	大阪府	海外	大阪府	大阪府	海外	海外
	7,367	16,458	17,441	22,818	21,334	21,861	22,600	10,720	10,829	26,186	13,331	17,993
4	京都府	和歌山県	和歌山県	和歌山県	和歌山県	愛知県	愛知県	愛知県	愛知県	三重県	愛知県	岡山県
	4,859	12,988	14,600	14,190	10,850	15,526	14,849	7,324	9,712	14,815	9,832	7,932
5	滋賀県	滋賀県	京都府	京都府	京都府	京都府	和歌山県	香川県	香川県	岐阜県	岡山県	愛知県
	4,856	12,922	11,871	11,388	10,817	9,106	7,718	4,331	5,816	9,988	7,774	6,562
6	和歌山県	京都府	滋賀県	岡山県	岡山県	岡山県	岡山県	和歌山県	三重県	岡山県	三重県	京都府
	3,753	10,303	10,548	10,144	9,837	8,739	7,229	3,813	4,821	7,829	6,842	6,265
7	岐阜県	三重県	岡山県	奈良県	三重県	和歌山県	京都府	愛媛県	和歌山県	香川県	京都府	高知県
	3,718	9,259	9,836	8,922	9,557	8,512	6,996	3,807	4,477	7,558	6,642	6,184
8	岡山県	奈良県	奈良県	高知県	滋賀県	愛媛県	香川県	京都府	高知県	京都府	熊本県	熊本県
	3,363	9,173	9,764	8,748	8,757	7,579	6,553	3,664	4,357	6,952	6,392	5,774
9	三重県	岡山県	高知県	三重県	岐阜県	三重県	愛媛県	三重県	京都府	海外	福岡県	香川県
	3,345	7,820	8,920	8,634	7,504	6,844	6,352	3,609	4,323	6,743	6,146	5,714
10	東京都	高知県	三重県	滋賀県	高知県	熊本県	岐阜県	岡山県	福岡県	和歌山県	高知県	福岡県
	3,066	7,818	8,110	8,621	7,370	6,646	5,556	3,479	4,181	6,137	5,924	5,445

・平成25年度は、「兵庫県」が35,583人で第1位であるが、長期的に見ると減少傾向にある。

(4) 海外（国・地域別）

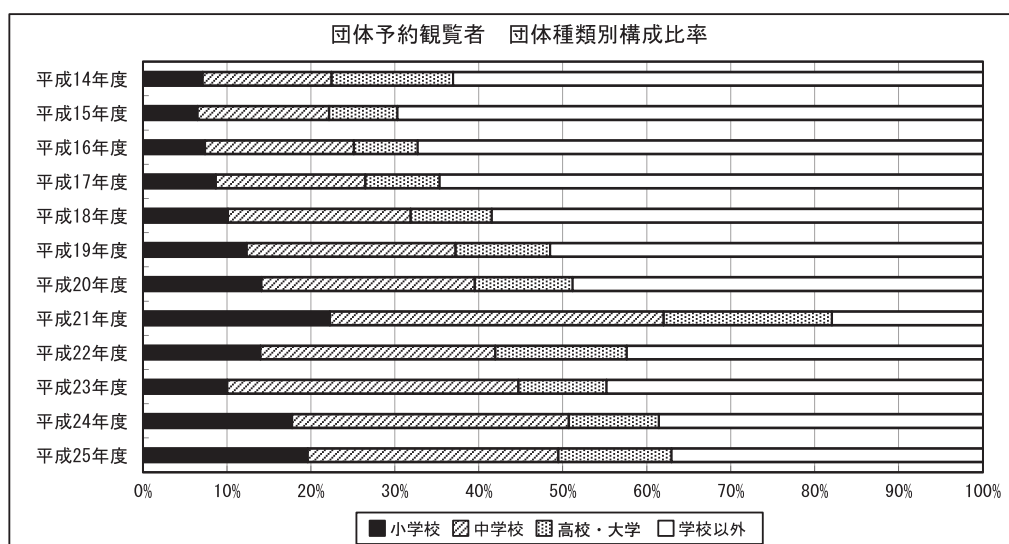


(単位：人)

	韓国	台湾	中国	その他	合計
平成21年度	2,333	452	4,297	3,638	10,720
平成22年度	6,019	877	4,703	5,384	16,983
平成23年度	1,375	136	2,157	3,075	6,743
平成24年度	2,748	479	2,106	7,998	13,331
平成25年度	4,065	821	1,321	11,786	17,993

- ・平成 25 年度の海外からの団体予約観覧者は 17,993 人で、東日本大震災や原発事故等の影響で減少した平成 23 年度 6,743 人に比べて約 2.7 倍となった。
- ・海外のうち韓国、台湾及び中国からの観覧者が、従来は半数以上を占めていたが、平成25年度は35%弱にとどまり、その他の国が11,786人（ベトナム4,794人、マレーシア1,458人、インドネシア1,151人ほか）と増加している。

(5) 団体種類別

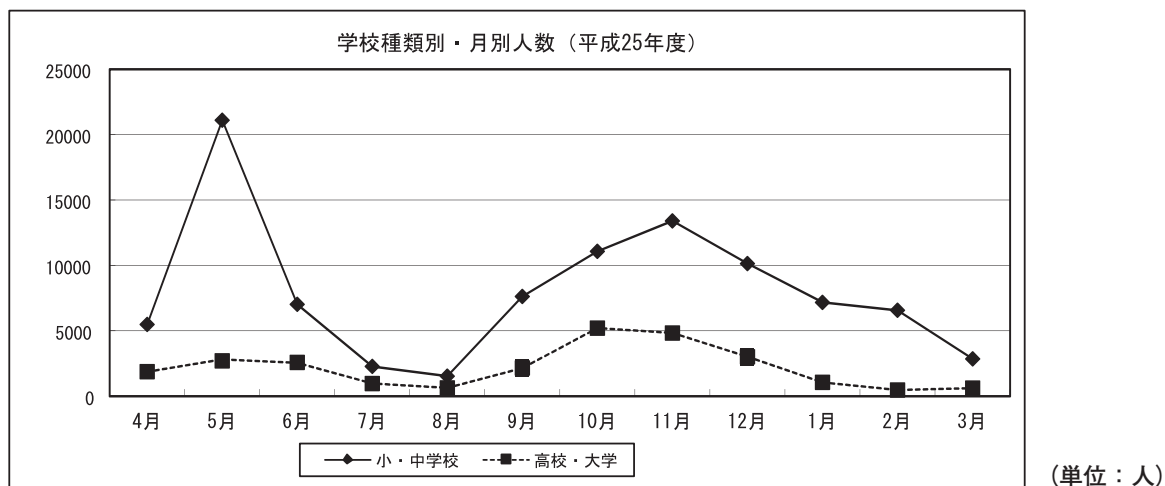


(上段：人数)

(下段：構成比率)

	学 校				学校以外	合計
		小学校	中学校	高校・大学		
平成14年度	53,578 36.3%	10,312 7.0%	22,243 15.1%	21,023 14.3%	93,937 63.7%	147,515 100.0%
平成15年度	95,941 30.3%	20,597 6.5%	49,552 15.6%	25,792 8.1%	220,816 69.7%	316,757 100.0%
平成16年度	109,135 32.7%	24,629 7.4%	59,158 17.7%	25,348 7.6%	224,698 67.3%	333,833 100.0%
平成17年度	118,509 35.3%	29,064 8.7%	59,704 17.8%	29,741 8.9%	217,058 64.7%	335,567 100.0%
平成18年度	131,385 41.5%	32,005 10.1%	68,777 21.7%	30,603 9.7%	184,967 58.5%	316,352 100.0%
平成19年度	137,061 48.5%	34,923 12.3%	70,257 24.8%	31,881 11.3%	145,744 51.5%	282,805 100.0%
平成20年度	126,544 51.2%	34,893 14.1%	62,795 25.4%	28,856 11.7%	120,845 48.8%	247,389 100.0%

平成21年度	105,097 82.0%	28,512 22.2%	50,900 39.7%	25,685 20.0%	23,050 18.0%	128,147 100.0%
平成22年度	85,538 57.6%	20,752 14.0%	41,518 28.0%	23,268 15.7%	62,977 42.4%	148,515 100.0%
平成23年度	133,068 55.2%	24,157 10.0%	83,562 34.7%	25,349 10.5%	108,042 44.8%	241,110 100.0%
平成24年度	125,214 61.4%	36,186 17.7%	67,159 32.9%	21,869 10.7%	78,670 38.6%	203,884 100.0%
平成25年度	122,682 64.1%	38,232 20.0%	58,137 30.4%	26,313 13.7%	68,731 35.9%	191,413 100.0%



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
小・中学校	5,501	21,114	7,028	2,281	1,543	7,635	11,087	13,415	10,151	7,179	6,572	2,863	96,369
高校・大学	1,883	2,827	2,560	979	641	2,163	5,219	4,841	3,021	1,067	486	626	26,313
合 計	7,384	23,941	9,588	3,260	2,184	9,798	16,306	18,256	13,172	8,246	7,058	3,489	122,682

- ・平成25年度は、団体種別では「学校」が64.1%を占めている。
- ・「学校」の中では「中学校」が半数近くを占め、月別では5月、10～11月が多くなっている。

5 来館者アンケートの概要

来館者の属性、来館動機、施設の評価等を把握するため、アンケート調査を実施した。調査結果の概要は次のとおり。

項 目	内 容
調査対象及び方法	・ 一般来館者 ・ 調査票を手渡し自記入（防災未来館総合案内等にて配布） ・ 回収箱及び郵送により回収
実施時期	・ 平成25年12月1日（日）～平成25年12月15日（日）
回答状況	・ 回答数 2501 件 ・ 無効数 259 件 ・ 有効回答数 2242 件（有効回答率：89.6%）

(1) 回答者の属性

①年代別

	標本数	～10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答
回答数	2242	1460	119	95	129	126	151	137	25
比率 (%)	100.0	65.1	5.3	4.2	5.8	5.6	6.7	6.1	1.1

「10代」の来館者が最も多く、6割以上を占めた。次いで「60代」、「70歳以上」の高齢の来館者が多かった。

②性別

	標本数	男性	女性	無回答
回答数	2242	981	1145	116
比率 (%)	100.0	43.8	51.1	5.2

男女比では、女性の来館者の方が多かった。

年代別に見ると、「20代」「30代」「60代」は男性の方が多かったが、それ以外の年代については女性の方が多かった。

③住所地別

	標本数	神戸市内	兵庫県内	近畿圏内	その他	無回答
回答数	2242	54	199	291	1492	206
比率 (%)	100.0	2.4	8.9	13.0	66.5	9.2

④職業等別

	標本数	学生	民間就業者	学校教員	公務員 (教員以外)	地域団体等	無職・その他	無回答
回答数	2242	1508	196	88	30	164	133	123
比率 (%)	100.0	67.3	8.7	3.9	1.3	7.3	5.9	5.5

【学 生】→「小学生」、「中学生」、「高校生」、「大学生・専門学校生」

【民 間 就 業 者】→「自営業」、「会社員(役員含む)」

【学 校 教 員】→「学校教員」

【公務員(教員以外)】→「公務員(教員以外)」

【地 域 団 体 等】→「地域団体」「専業主婦」

【無 職 ・ そ の 他】→「無職」、「その他」

(2) 来館行動

①同伴者(1つ選択)

	標本数	ひとりで	家族と	友人・知人と	団体で	その他	無回答
回答数	2242	38	101	56	1936	31	80
比率 (%)	100.0	1.7	4.5	2.5	86.4	1.4	3.6
・年代別							
10代	1460	10	25	19	1341	19	46
	100.0	0.7	1.7	1.3	91.8	1.3	3.2
20代・30代	214	12	25	16	153	4	4
	100.0	5.6	11.7	7.5	71.5	1.9	1.9
40代・50代	255	11	32	14	191	3	4
	100.0	4.3	12.5	5.5	74.9	1.2	1.6
60代・70歳以上	288	5	19	7	239	5	13
	100.0	1.7	6.6	2.4	83.0	1.7	4.5
無回答	25	0	0	0	12	0	13
	100.0	0.0	0.0	0.0	48.0	0.0	52.0

	標本数	ひとりで	家族と	友人・知人と	団体で	その他	無回答
・性別							
男性	981 100.0	28 2.9	39 4.0	28 2.9	838 85.4	15 1.5	33 3.4
女性	1145 100.0	8 0.7	54 4.7	24 2.1	1020 89.1	14 1.2	25 2.2
無回答	116 100.0	2 1.7	8 6.9	4 3.4	78 67.2	2 1.7	22 19.0
・住所地別							
神戸市内	54 100.0	8 14.8	6 11.1	10 18.5	27 50.0	1 1.9	2 3.7
兵庫県内	199 100.0	1 0.5	20 10.1	5 2.5	169 84.9	0 0.0	4 2.0
近畿圏内	291 100.0	5 1.7	25 8.6	9 3.1	240 82.5	5 1.7	7 2.4
その他の地域	1492 100.0	20 1.3	46 3.1	25 1.7	1346 90.2	20 1.3	35 2.3
無回答	206 100.0	4 1.9	4 1.9	7 3.4	154 74.8	5 2.4	32 15.5
・職業等別							
学生	1508 100.0	11 0.7	28 1.9	25 1.7	1390 92.2	20 1.3	34 2.3
民間就業者	196 100.0	13 6.6	33 16.8	11 5.6	131 66.8	3 1.5	5 2.6
学校教員	88 100.0	1 1.1	2 2.3	7 8.0	76 86.4	2 2.3	0 0.0
公務員（教員以外）	30 100.0	4 13.3	4 13.3	2 6.7	18 60.0	2 6.7	0 0.0
地域団体等	164 100.0	1 0.6	19 11.6	2 1.2	138 84.1	0 0.0	4 2.4
無職・その他	133 100.0	5 3.8	11 8.3	4 3.0	105 78.9	3 2.3	5 3.8
無回答	123 100.0	3 2.4	4 3.3	5 4.1	78 63.4	1 0.8	32 26.0

全体：「団体で」訪れた来館者が最も多く（8割以上）、次いで「家族と」訪れた来館者が多かった。

年齢：全ての年代において、「団体で」訪れた来館者が最も多く、次いで「家族と」訪れた来館者が多かった。

性別：男女ともに「団体で」訪れた来館者が最も多く、次いで「家族と」訪れた来館者が多かった。

住所：全地域において、「団体で」訪れた来館者が最も多かった。「神戸市内」在住の来館者は、「団体で」に次いで「友人・知人と」訪れた来館者が多かったが、それ以外は「団体で」に次いで「家族と」訪れた来館者が多かった。

職業：職業に関わらず、「団体で」訪れた来館者が最も多かった。「学校教員」の来館者は、「団体で」に次いで「友人・知人と」訪れた来館者が多かったが、それ以外は「団体で」に次いで「家族と」訪れた来館者が多かった。

②観覧予約をしたかどうか（「団体で」と回答した者：1つ選択）

	標本数	はい	いいえ	無回答
回答数	2242	1102	528	612
比率（%）	100.0	49.2	23.6	27.3

「団体で」訪れた来館者に「観覧予約をしたかどうか」を質問したところ、約半数が「観覧予約をした」と回答した。

③来館回数（1つ選択）

	標本数	はじめて	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目	10回目	11回以上	無回答	平均
回答数	2242	1809	121	25	12	3	2	1	0	0	5	3	261	1.14回
比率(%)	100.0	80.7	5.4	1.1	0.5	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1	11.6	

例年同様、「はじめて」の来館者が最も多かった。

④交通手段（複数選択）

	標本数	車	タクシー	バス	JR	阪神電車	阪急電車	徒歩	その他	無回答
回答数	2242	120	43	1647	164	75	42	71	95	182
比率(%)	100.0	4.9	1.8	67.5	6.7	3.1	1.7	2.9	3.9	7.5
・住所別										
神戸市内	54	5	5	6	8	13	2	15	1	3
		8.6	8.6	10.3	13.8	22.4	3.4	25.9	1.7	5.2
兵庫県内	199	23	13	96	22	18	23	17	4	7
		10.3	5.8	43.0	9.9	8.1	10.3	7.6	1.8	3.1
近畿圏内	291	21	0	213	22	11	8	3	11	10
		7.0	0.0	71.2	7.4	3.7	2.7	1.0	3.7	3.3
その他の地域	1492	63	23	1215	102	27	7	33	76	100
		3.8	1.4	73.8	6.2	1.6	0.4	2.0	4.6	6.1
無回答	206	8	2	117	10	6	2	3	3	62
		3.8	0.9	54.9	4.7	2.8	0.9	1.4	1.4	29.1

例年同様、「バス」での来館が最も多く、次いで「JR」での来館が多かった。

「神戸市内」在住の来館者は「徒歩」での来館が最も多く、それ以外の地域では「バス」での来館が最も多かった。

⑤認知手段（複数回答）

	標本数	新聞	雑誌	TV・ラジオ	講演会	ホームページ	ポスター・ちらし	学校・先生からの紹介	友人・知人・家族からの紹介	旅行代理店	各種団体から	その他	無回答
回答数	2242	84	30	70	95	122	42	821	139	146	423	186	335
比率(%)		3.4	1.2	2.8	3.8	4.9	1.7	32.9	5.6	5.9	17.0	7.5	13.4
・年代別													
10代	1460	35	6	27	16	42	15	707	40	49	224	135	261
		2.2	0.4	1.7	1.0	2.7	1.0	45.4	2.6	3.1	14.4	8.7	16.8
20代・30代	214	10	3	4	11	23	8	81	27	15	23	17	15
		4.2	1.3	1.7	4.6	9.7	3.4	34.2	11.4	6.3	9.7	7.2	6.3
40代・50代	255	10	11	15	13	35	6	28	36	45	59	14	19
		3.4	3.8	5.2	4.5	12.0	2.1	9.6	12.4	15.5	20.3	4.8	6.5
60代・70歳以上	288	27	10	24	53	22	13	2	35	37	116	20	23
		7.1	2.6	6.3	13.9	5.8	3.4	0.5	9.2	9.7	30.4	5.2	6.0
無回答	25	2	0	0	2	0	0	3	1	0	1	0	17
		7.7	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	11.5	3.8	0.0	3.8	0.0	65.4
・住所別													
神戸市内	54	10	0	5	3	5	5	23	6	1	4	6	3
		14.1	0.0	7.0	4.2	7.0	7.0	32.4	8.5	1.4	5.6	8.5	4.2
兵庫県内	199	9	5	11	17	14	4	75	21	3	45	9	21
		3.8	2.1	4.7	7.3	6.0	1.7	32.1	9.0	1.3	19.2	3.8	9.0
近畿圏内	291	12	1	11	25	21	8	83	26	13	89	21	20
		3.6	0.3	3.3	7.6	6.4	2.4	25.2	7.9	3.9	27.0	6.4	6.1
その他の地域	1492	43	21	36	43	71	21	587	78	122	259	134	218
		2.6	1.3	2.2	2.6	4.3	1.3	35.9	4.8	7.5	15.9	8.2	13.3
無回答	206	10	3	7	7	11	4	53	8	7	26	16	73
		4.4	1.3	3.1	3.1	4.9	1.8	23.6	3.6	3.1	11.6	7.1	32.4

・職業等別													
学生	1508	37 2.3	6 0.4	28 1.7	21 1.3	40 2.5	17 1.1	767 47.6	47 2.9	47 2.9	228 14.1	138 8.6	237 14.7
民間就業者	196	6 2.6	13 5.7	8 3.5	22 9.7	34 15.0	3 1.3	6 2.6	39 17.2	27 11.9	43 18.9	13 5.7	13 5.7
学校教員	88	9 8.3	0 0.0	7 6.4	4 3.7	13 11.9	3 2.8	24 22.0	11 10.1	24 22.0	5 4.6	3 2.8	6 5.5
公務員(教員以外)	30	0 0.0	3 9.1	1 3.0	2 6.1	7 21.2	2 6.1	1 3.0	6 18.2	6 18.2	3 9.1	2 6.1	0 0.0
地域団体等	164	10 5.1	4 2.0	7 3.6	17 8.7	7 3.6	3 1.5	5 2.6	16 8.2	22 11.2	79 40.3	12 6.1	14 7.1
無職・その他	133	15 8.2	4 2.2	15 8.2	24 13.0	13 7.1	10 5.4	4 2.2	15 8.2	14 7.6	47 25.5	14 7.6	9 4.9
無回答	123	7 5.3	0 0.0	4 3.1	5 3.8	8 6.1	4 3.1	14 10.7	5 3.8	6 4.6	18 13.7	4 3.1	56 42.7

全体 : 「学校・先生からの紹介」で知ったという回答が最も多く、次いで「各種団体から」知ったという回答が多かった。

年齢 : 「10代」「20代」では「学校・先生からの紹介」で知ったという回答が最も多く、それ以外の年代では「各種団体から」知ったという回答が最も多かった。

住所 : 「近畿圏内」在住の来館者は「各種団体から」知ったという回答が最も多かったが、それ以外の地域在住の来館者は「学校・先生からの紹介」で知ったという回答が最も多かった。

職業 : 「学生」は「学校・先生からの紹介」、「学校教員」は「学校・先生からの紹介」「旅行代理店」で知ったという回答が最も多く、「公務員」は「ホームページ」で知ったという回答が多かった。それ以外の職業の来館者は「各種団体から」知ったという回答が最も多かった。

⑥来館動機（複数回答）

	標本数	阪神・淡路 大震災の状 況を知りた くて	防災に 関する 情報を 知りたくて	語り部による 被災体験 を聞きたくて	専任研究員 による防災セ ミナーに興 味があつて	知人・友人 に 勧められて	団体旅行に 組み込まれ ていたため	学校行事で	会社・団体 の行事で	東日本 大震災を きっかけに	その他	無回答
回答数	2242	756	372	197	62	103	282	678	400	169	63	270
比率 (%)		22.6	11.1	5.9	1.8	3.1	8.4	20.2	11.9	5.0	1.9	8.1
・年代別												
10代	1460	438 20.6	120 5.6	122 5.7	44 2.1	67 3.1	174 8.2	571 26.8	252 11.8	104 4.9	35 1.6	204 9.6
20代・30代	214	86 25.9	51 15.4	20 6.0	1 0.3	16 4.8	19 5.7	68 20.5	33 9.9	19 5.7	7 2.1	12 3.6
40代・50代	255	113 28.5	82 20.7	27 6.8	1 0.3	9 2.3	36 9.1	30 7.6	54 13.6	18 4.5	11 2.8	15 3.8
60代・70歳以上	288	115 24.7	118 25.4	28 6.0	16 3.4	11 2.4	53 11.4	5 1.1	56 12.0	28 6.0	10 2.2	25 5.4
無回答	25	4 14.3	1 3.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 14.3	5 17.9	0 0.0	0 0.0	14 50.0
・住所地別												
神戸市内	54	24 25.8	14 15.1	6 6.5	2 2.2	7 7.5	2 2.2	20 21.5	5 5.4	5 5.4	5 5.4	3 3.2
兵庫県内	199	69 22.3	42 13.6	17 5.5	4 1.3	16 5.2	17 5.5	60 19.4	42 13.6	16 5.2	5 1.6	21 6.8
近畿圏内	291	105 23.8	77 17.4	29 6.6	13 2.9	14 3.2	36 8.1	55 12.4	64 14.5	22 5.0	8 1.8	19 4.3
その他の地域	1492	493 22.3	211 9.6	127 5.8	34 1.5	57 2.6	211 9.6	505 22.9	260 11.8	110 5.0	37 1.7	161 7.3

無回答	206	65 21.5	28 9.3	18 6.0	9 3.0	9 3.0	16 5.3	38 12.6	29 9.6	16 5.3	8 2.6	66 21.9
・ 職業等別												
学生	1508	459 20.7	136 6.1	130 5.9	42 1.9	67 3.0	173 7.8	619 27.9	259 11.7	109 4.9	36 1.6	185 8.4
民間就業者	196	87 28.0	69 22.2	18 5.8	4 1.3	15 4.8	30 9.6	7 2.3	40 12.9	18 5.8	9 2.9	14 4.5
学校教員	88	43 26.7	32 19.9	18 11.2	1 0.6	8 5.0	11 6.8	29 18.0	10 6.2	5 3.1	0 0.0	4 2.5
公務員(教員以外)	30	13 28.9	14 31.1	2 4.4	2 4.4	0 0.0	3 6.7	1 2.2	4 8.9	2 4.4	4 8.9	0 0.0
地域団体等	164	67 26.5	53 20.9	12 4.7	4 1.6	4 1.6	35 13.8	5 2.0	46 18.2	16 6.3	2 0.8	9 3.6
無職・その他	133	49 24.6	52 26.1	8 4.0	4 2.0	5 2.5	19 9.5	3 1.5	28 14.1	10 5.0	10 5.0	11 5.5
無回答	123	38 22.6	16 9.5	9 5.4	5 3.0	4 2.4	11 6.5	14 8.3	13 7.7	9 5.4	2 1.2	47 28.0

全体 : 例年同様、「阪神・淡路大震災の状況を知りたくて」が来館動機として最も多く、次いで「学校行事で」が多かった。

年齢 : 「10代」では「学校行事で」来館動機として最も多く、「60代・70歳以上」では「防災に関する情報を知りたくて」が最も多かった。それ以外の年代では、「阪神・淡路大震災の状況を知りたくて」が最も多かった。

住所 : 「神戸市内」「兵庫県内」「近畿圏内」在住の来館者の来館動機は「阪神・淡路大震災の状況を知りたくて」が最も多かったが、「その他の地域」在住の来館者の来館動機は「学校行事で」が最も多かった。

職業 : 「学生」の来館動機は「学校行事で」が最も多く、「公務員」「無職・その他」の来館動機は「防災に関する情報を知りたくて」が最も多かった。それ以外の来館者の来館動機は「阪神・淡路大震災の状況を知りたくて」が最も多かった。

「その他」回答（主なもの）

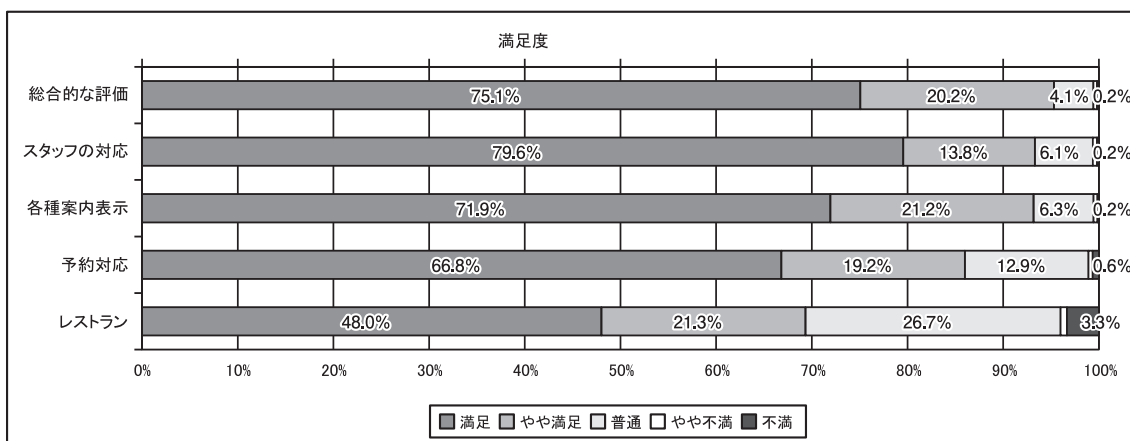
- ・子ども達に伝えたくて
- ・被災者だったので忘れないため
- ・東南海地震にそなえて
- ・新情報の収集
- ・以前来て、良かったから
- ・一度は来たかったから
- ・近いから

(3) 満足度 (1つ選択)

	有効標本数	満足 している (A)	やや満足 している (B)	どちらとも いえない (C)	あまり満足 していない (D)	満足 していない (E)	無回答	今回平均	前回平均	前々回 平均
総合評価	2110	1584	427	87	8	4	132	4.70	4.41	4.36
	100.0	75.1	20.2	4.1	0.4	0.2	-			
館内案内スタッフ	2079	1654	286	126	9	4	163	4.72	4.38	4.43
	100.0	79.6	13.8	6.1	0.4	0.2	-			
各種案内表示	1963	1412	417	123	8	3	279	4.64	4.23	4.24
	100.0	71.9	21.2	6.3	0.4	0.2	-			
予約対応	464	310	89	60	2	3	1778	4.51	4.22	4.23
	100.0	66.8	19.2	12.9	0.4	0.6	-			
レストラン	150	72	32	40	1	5	2092	4.10	4.05	4.02
	100.0	48.0	21.3	26.7	0.7	3.3	-			

平均：(A) から (E) の評価を 5 点満点で表した平均点数

過去の調査と比較すると、すべての項目において前回・前々回の評価を上回った。



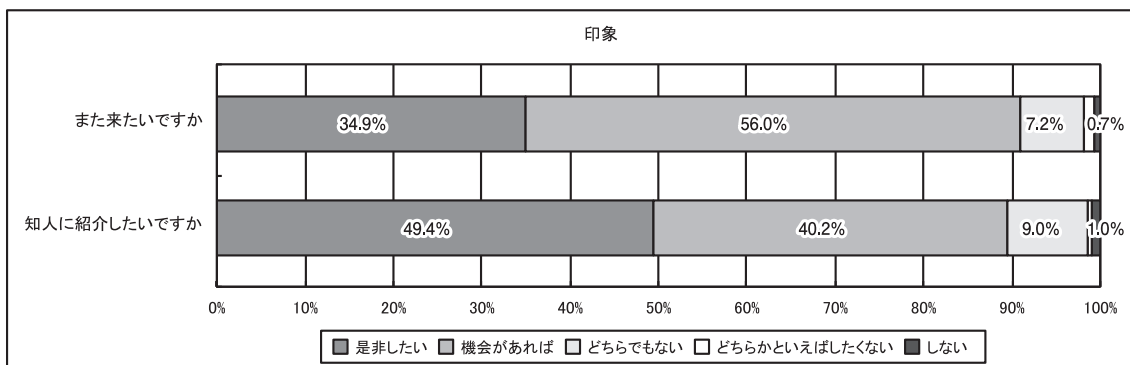
(4) 印象 (1つ選択)

	有効標本数	是非来たい (A)	機会があれば (B)	どちらでもない (C)	どちらかとい えはしたく ない (D)	しない (E)	無回答	平均	前回平均
また来たいですか	2034	709	1140	147	24	14	208	4.23	4.11
	100.0	34.9	56.0	7.2	1.2	0.7	-		
知人に紹介したいですか	1943	959	781	175	9	19	299	4.36	4.20
	100.0	49.4	40.2	9.0	0.5	1.0	-		

平均：(A) から (E) の評価を 5 点満点で表した平均点数

来館者の 9 割以上が、当館への再訪について肯定的な回答をした（「是非来たい」「機会があれば」と回答した）。

また、知人への紹介についても同じく、肯定的な回答が約 9 割を占めた。



I 章 展示

2 節 常設展示の概要

1 項 西館（旧防災未来館）

エントランス、ロビーのほか、阪神・淡路大震災の経験と教訓を伝える「震災追体験フロア」（4階）、「震災の記憶フロア」（3階）及び地震災害を中心に防災・減災について学ぶ「防災・減災体験フロア」（2階）を配置している。

【主な経緯】

○平成 14 年 4 月 27 日一般公開開始

○平成 19 年度

開館後の時間経過に伴う復興過程の新たな情報を追記するとともに、来館者に震災の情報等をより分かりやすく伝える観点から、西館全体にわたり展示改修を検討、実施。

・平成 19 年 10 月 30 日 資料室を 2 階から 5 階に移転

・平成 20 年 1 月 9 日 リニューアルオープン

【平成 25 年度の主な展示改修】

- ①「津波浸水ハザードマップ」について、これまでの兵庫県、大阪府、和歌山県、徳島県、高知県に加え静岡県を追加するとともに、南海トラフ巨大地震に係る国の想定見直しを踏まえた各府県の新たな津波想定に応じて内容を更新（2階）。
- ②「記憶の壁」展示に英語キャプションを追加（3階）。
- ③展示ガイド（Wi-Fi）システムの構築（3階）。
- ④「震災資料のメッセージー 1.17 の衝撃ー」（資料室収蔵の実物資料の特別展示コーナー）を設置（3階）。
- ⑤大震災ホールの外国語翻訳ガイド機器を更新（4階）。

1 エントランス：1 階

(1) センター紹介ガイダンス（平成 19 年度リニューアル）

来館者が効果的に学べるように、センターの設立趣旨や展示のねらいについて、事前ガイダンスを実施している。

(2) 東海・東南海・南海地震による津波の記録

来館者が、東南海・南海地震による津波の被害について、より実感をもって理解し、また、災害に対する備えへの意識を高めることができるように、これまでの南海地震、東南海地震による津波の記録と、今後発生した場合に想定される最大の津波高を懸垂幕に表示して展示している（平成 21 年 4 月 28 日設置）。

なお、平成 24 年度に、内閣府による南海トラフ巨大地震に係る新たな津波想定を踏まえ、解説パネルを設置した。



2 震災追体験フロア：4階

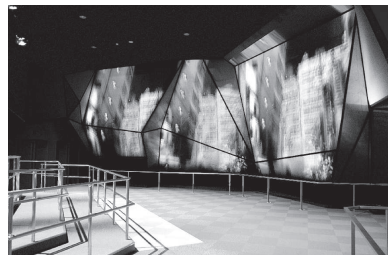
(1) 震災以前のまち（1.17シアター前室）（平成19年度リニューアル）

震災以前の神戸のまち並みの切り絵を展示し、照明と音響の演出により来館者を震災前夜にタイムスリップさせ、次の1.17シアターから始まる震災追体験に効果的につなげる空間を創出している。



(2) 1.17シアター（「5：46の衝撃」）

平成7年（1995年）1月17日午前5時46分、マグニチュード7.3の兵庫県南部地震が発生した。その瞬間、阪神・淡路の各地域で何が起こったのかを、特殊撮影やコンピューターグラフィックの映像により再現。崩壊していくビル、家屋、高速道路、鉄道、破壊され燃え上がる街の様子を、不定形多面体スクリーンの映像や立体音響システムなどにより、臨場感高く表現している。



①映像モチーフ

高度に機能集積した近代都市の脆弱性を明らかにするため、都市基盤崩壊の様相を特徴的に示すモチーフを、映像イメージ、阪神・淡路地区の都市構造・建築・土木構造の分析、被害の概要の視点から選定している。

被害分類	映像構成モチーフ	映像イメージ
住宅地	淡路島北淡町住宅群	激しく揺れる木造の住宅群が将棋倒しになる情景 タンスが倒れ天井が崩落する住宅の中を住民の視点で見たカット
商店街	神戸市内商店街	崩れる看板、倒れる自動販売機、 瓦礫と化す商店、商品が崩れ乱れ飛ぶ商店内のカット
都市部	神戸市内高層ビル 神戸市内病院 明石市立天文科学館 港湾の被害	大きく揺れるビル街、オフィスの窓ガラスが飛び散り壁面に走るクラック、飛び散る壁、舞い上がる粉じん、中層階の崩壊する病院、5:46を指したまま止まる時計
交通機関	私鉄電車	金属のきしみとともに正面の波打つ線路 脱線転覆する電車、崩れる高架
	私鉄駅舎	電車が駅舎にめり込み重い衝撃が広がり陥没崩壊する駅舎
	阪神高速道路3号神戸線	うねり始める道路、車がハンドルを取られて蛇行する様子を車を運転する人の視点で見たカット 橋柱に亀裂、折れる橋柱、横倒しになる高速道路
地震火災	神戸市内住宅街	火災発生状況

② 収容人員 約150人

③ 上映時間 約7分

(3) 震災直後のまち

強烈な地震動により破壊された極限状態のまちをジオラマ模型で再現し、破壊状況に茫然自失となった被災者と同じ状況を体感する。



区 分	イメージ
壊れた医院	建物が傾き今にも倒壊しそうな医院。天井から落下しそうなベッド。天井の床が抜け落ち壁が崩壊。
階下が押し潰された鉄筋コンクリートのマンション	夫婦の布団、ベビーベッド、倒れた家具。散乱する台所用品、潰れた階層では家具調度品が押し潰されている。
壊れた木造家屋	1階部分が押し潰されて下敷きになった車と2階和室に散乱する家具、生活用品。
焼け落ちた市場のアーケード	焼け焦げたアーケードの向こうには、焼け落ちた波トタンや鉄骨、木材等の瓦礫。さらには、その奥に焦土と化した街の遠景写真が広がる。
垂れ下がる線路	倒れこむ高架橋、その上には不安定にねじ曲がった線路が宙に浮いている。

(4) 大震災ホール（「このまちと生きる」・平成19年度リニューアル）

地震発生から復旧・復興していくまちの人々の姿の実写資料を編集した映像に合わせて、多くの被災者が感じたであろう気持ちや、復興過程の光と影の両面からの事実、教訓について、1人の女性がモノローグにより被災地からのメッセージとして語っていく。



①収容人員 150人（椅子席）

②上映時間 約15分

③字幕表示

聴覚障害者のためにスクリーン下部に、映像に合わせてナレーションなどを字幕表示している。

④発光ダイオード（LED）字幕表示システム

スクリーン右横に取り付けた表示板の電光文字により、映像内容についての事前説明を表示している。

このシステムは、ライオンズクラブ国際協会335複合地区及び特定非営利活動法人デフピープルから、人と防災未来センターに寄贈いただいたものである。（平成18年1月16日設置）

⑤その他

外国語翻訳ガイド機器110台（英語・中国語・韓国語）
（平成25年度更新）

3 震災の記憶フロア：3階

(1) 被災の状況（平成 19 年度リニューアル）

震災当日の報道映像を中心に、市町ごとの被災の詳細について、被災地の実写映像と地図を重ね合わせ、震度分布や火災等の被災状況の広がり天井から吊り下げた液晶パネルで、視覚的に伝えている。



(2) まちの変化（定点観測）

同じ場所の被災時と現在を映像で対比し、復興の姿を伝えている。

〈定点観測地点〉

ア 神戸市・三宮 イ 六甲道 ウ 神戸港 エ 大正筋商店街
オ 西宮市・仁川百合野町 カ 明石海峡大橋 キ 生田神社 ク 阪神高速道路

(3) 震災オリエンテーション

①復興への道（平成 19 年度リニューアル）

震災直後から現在までの復興過程を 5 つのシーンに分け、それぞれの時期における人の暮らしとまちなみの象徴的なシーンをジオラマで表現するとともに、体験談映像と運営ボランティアによる解説を加え、復興の全体像をわかりやすく伝えている。



＜5 つのシーン＞

時期	テーマ	まちなみの ジオラマ	人の暮らしの ジオラマ
震災直後	つぶれた家の中から見た被災地「生と死のあいだで」	壊滅したまち	倒壊した家屋
2 週間後	緊急避難と今後の不安「避難所のつらさとあたたかさ」	ブルーシートのまち	避難所での共同生活
3～6 か月後	再建への第一歩「それぞれの再建への動き」	復旧を急ぐまち	仮設住宅の生活
1～3 年後	復旧と再建の狭間で「まちづくりの理想と現実」	復興が進むまち	それぞれの住宅再建
10 年以降	継承することの意味、難しさ「活動し続ける被災地」	復興したまち	ふれあいのある暮らし

②震災復興過程の課題・震災復興年表（平成 19 年度リニューアル）

復興過程の主な課題をフェーズ・分野ごとに整理したパネルと震災復興年表を展示している。

(4) 震災からの復興をたどる「震災学習テーブル」

震災直後からの復興過程における事象や震災の教訓等について、4 つのテーマからなる震災学習テーブルに、各テーマに係る映像、実物資料、グラフィック等をタッチパネル方式で電子ブック化し、展示している。（4 か国語対応）



< 4つのテーマ >

① 生と死のあいだで

いのちを守る、生と死の岐路、生きていくために、広がる不安、二次災害

② 復旧の苦しみ

避難所の暮らし、復旧への道、仮設住宅、助け合い・ボランティア

③ まちとこころの復興

生活・福祉復興、産業復興、住宅復興、文化復興

④ 震災から生まれたもの

提言、災害に備える、ボランティア・NPO、伝えたいこと、震災を忘れない

(5) 震災の記憶を残す「記憶の壁」

市民の協力により収集した震災関連資料を資料提供者の体験談とともに展示している。

展示資料は、実物（立体物）、写真、手記等であり、写真、紙資料を被災環境の変化にそって壁部分に展示、また、実物資料を壁前面に展示している。

（写真：約 500 点、手記：約 260 点、実物資料：約 70 点）

また、各壁面にそのテーマを端的に表す資料をピックアップした「スポット展示」を設置している。

① 被災：鷹取商店街の看板

② 避難・復旧：ふれあいセンターのベンチと鯉のぼり

③ 復興・語り継ぐ：子供たちの震災新聞

(6) 震災資料のメッセージー 1.17 の衝撃ー

平成 25 年度から、センター資料室が収蔵する実物資料を、テーマにそって、3 ヶ月ごとに順次紹介している。

平成 25 年 5 月～ 7 月 揺れの衝撃 …… 割れた壺

8 月～ 10 月 火災の衝撃 (1) …… 溶けた硬貨

11 月～ 1 月 液状化の衝撃 …… 液状化によって噴出した砂

2 月～ 4 月 火災の衝撃 (2) …… 焼け焦げたキーホルダー

(7) 文字音声ガイド携帯端末「ハンディガイド」(平成 19 年度リニューアル)

「記憶の壁」の展示物にまつわる体験談を音声と文字で確認できる携帯端末を貸し出している。(4 か国語対応)

なお、平成 25 年度に、個人のスマートフォンで文字音声ガイドを利用できる展示ガイド (Wi-Fi) システムを構築した。

(8) 震災・復興メッセージ (平成 19 年度リニューアル)

ハンディガイドに収録している体験談をパソコン画面で閲覧、検索することができる。

(9) 語り部コーナー

語り部が自らの震災体験を生で語るほか、震災に関わった人々（被災者、医療関係者、消防団員、県警機動隊員等 25 名、ユース震災語り部 27 名）がビデオで体験を伝えている。

平成 24 年度には、視聴覚障害者のため、語り部映像に字幕を付与するとともに、「被災体験を語り継ぐ 阪神・淡路大震災～ろうあ者の 1.17～」(DVD) のモニターを設置した。

また、来館者が見学後の感想を残すことができるメッセージボードを設置している。



(10) 被災したわがまちの光景～記録写真でたどる阪神・淡路大震災～

資料室収蔵の被災写真（100 枚）を天井から吊り下げた大型液晶パネルで閲覧できるようにしている。（平成 24 年度設置）



4 防災・減災体験フロア：2階

(1) 災害の衝撃（ディザスターインパクト）（平成 19 年度リニューアル）

噴火、竜巻、ハリケーン、地震、津波の自然災害を実写映像により見せることで、自然災害の脅威を訴え、自然災害への関心を高めるための 2 階展示の導入部として設置している。



(2) 災害情報ステーション

① ニュースボード（デジタル電子新聞）

被災地から芽生えた活動が、国内外の災害支援等に広がっていることを事例等により紹介している。

ア 被災地からの発信

イ 各種防災機関ニュース

ウ 災害調査レポート

② 未来へ向けた取り組み

国内外の災害の発生状況や教訓等をパネルで紹介している。



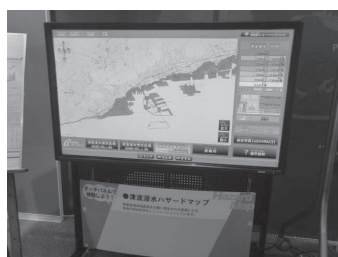
(3) 災害検索テーブル「地域の危険度情報」

日本国内の災害危険度について、各防災機関のハザードマップのパソコン検索により、自分の地域の危険度や世界の巨大自然災害の発生状況を確認することができる。

(4) ハザードマップ（タッチパネル方式）

来館者自らが触って、確認できるタッチパネル方式によるハザードマップを配置している。

名 称	内 容
津波浸水ハザードマップ	地図と航空写真を活用した、衛星写真と組み合わせたタッチパネル方式の 6 府県（兵庫県、大阪府、和歌山県、高知県、徳島県、静岡県）の津波浸水予測図 平成 25 年度に、新たに静岡県を追加するとともに、各府県の新たな津波想定に応じて内容を更新。
東日本大震災の津波浸水域表示マップ	東日本大震災による岩手県、宮城県、福島県の津波浸水域を表示したマップ
河川洪水ハザードマップ および神戸市地震津波減災マップ	コンピューターグラフィックを活用し、高精細 3D デジタル地図、衛星写真などを組み合わせたタッチパネル方式の県内主要 6 河川の洪水ハザードマップと、神戸市中央区と兵庫区の地震津波減災マップ（株式会社神戸製鋼所寄贈）



(5) 防災教育副読本「明日に生きる」

兵庫県教育委員会が作成した防災教育副読本「明日に生きる」の電子ブック(タッチパネル方式)を2基設置している。小学校低学年用、小学校高学年用、中学校用及び高等学校用の4種類を選択、閲覧できる。(平成24年度設置)



(6) 防災・減災ワークショップ

①防災・減災を学ぶ(平成19年度リニューアル)

災害・防災に関する知識を小学生などにもわかり易く、実験やゲームで体験しながら学ぶことができる防災ワゴンや体験キット等がある。



<防災ワゴン>

名 称	内 容
自主防災を考える	防災カードで持ち出しリュックを作る
家庭防災を知る	部屋の模型にミニチュア家具を配置し、振動を与える
まちの防災を考える	仮想のまちイラストカードでハザードマップを作る
避難所を考える	小学校を避難所として完成させるパズル
震度の単位を知る	キャラクター人形により、地震のエネルギーの大きさを対比
震度を知る	震度別被害イラストカードによる震度階級カルタ
活断層を知る	活断層ジグソーパズル
活断層を調べる	反射実験鏡を使い、航空写真から活断層を確認する

<体験キット>

名 称	内 容
防災勝ち抜きゲーム	自然災害に対して自分たちが生き延びることを考えるゲーム
防災すごろく	防災・減災について学ぶすごろく
サバイバル・ファミリー	都市型災害にあった時、家族がどう対応するかを考えるゲーム
神経衰弱ー非常持ち出し品合わせ	家庭の非常持ち出し品を考える神経衰弱ゲーム
防災カルタ	防災・減災の知識を学ぶいろはカルタ
紙芝居	防災・減災紙芝居『奈々ちゃんのひみつ』
防災グッズ体験	実際の防災グッズを自分で使ったり組み立てたりして体験

<マグニチュードと地震のエネルギー>

地震のエネルギーは、マグニチュードが1増えると約32倍、マグニチュードが2増えると1,000倍になることを球状の模型の大きさで説明している。

②最前線 防災ノウハウとグッズ

各家庭において、いざという時に備える「非常持ち出し品」や「防災グッズ」を紹介している。

③実験ステージ

運営ボランティアによる「耐震構造」、「液状化現象」、「家具転倒防止」、「木造耐震木組」の装置を使った実演や映像により、防災・減災に役立つ解説を行っている。



- (7) 防災未来ギャラリー（平成 19 年度リニューアル）
最新の防災トピックスなどを紹介する企画展を開催している。



5 大型実物資料展示：西館南側（平成 19 年度リニューアル）

阪神高速道路の損傷橋脚の基部

震災メモリアルとして阪神高速道路神戸線の壊れた橋脚の基部を阪神高速道路株式会社から譲り受け、西館南側に設置し、折れ曲がった内部の鉄筋を見せることで地震の破壊力の凄さを訴えている。

2項 東館（旧ひと未来館）

3D映像を上映する「こころのシアター」（1階）のほか、地球温暖化等の環境変化に対応して、風水害に係る減災への取り組みについて考える「水と減災について学ぶフロア」（3階）を配置している。

なお、東日本大震災発生後は、特別展示として、同震災の関連展示（映像）も行っている。

【主な経緯】

○平成 15 年 4 月 26 日一般公開開始

○平成 21 年度

東館（旧ひと未来館）は、開館以降、癒しやコミュニケーションの空間を中心に、震災の教訓として「いのちの尊さ」、「共に生きることの大切さ」を伝えてきたが、近年、体験型の環境学習機会や学習施設が充実されてきたことに加え、世界的に多発する大規模自然災害への対応が求められていること等から、防災展示を充実させる方向で展示改修を検討、実施。

・平成 21 年 4 月 1 日 ひと未来館としての展示運営を休止

・平成 22 年 1 月 8 日 再オープン

①新たに風水害を中心とした防災展示（映像）を整備

②1階の「こころのシアター」は継続

③3階に「グローバル・トレーニング・サイト」（会議・研修等多目的スペース）を整備

④防災未来館を「西館」、ひと未来館を「東館」と館の名称を変更

【平成 25 年度の主な展示改修】

①「こころのシアター」で、平成 23 年 7 月より上映している東日本大震災被災地の 3Dドキュメンタリー映像「東日本大震災 津波の傷跡」（震災から 1 ヶ月後、半年後、1 年後の状況を紹介）について、2 年後（3 年目の春）までの映像を加え再編集して上映（「葉っぱのフレディ」と併用）（1 階）。

②グローバル・トレーニング・サイト（多目的スペース）において、南海トラフ巨大地震に係る展示を常設化し、継続して実施（3 階）。

1 こころのシアター：1 階

3D映像「葉っぱのフレディ」と「東日本大震災 津波の傷跡 2011-2013」を併用して上映している。

収容人員 150 人（椅子席）

(1) 葉っぱのフレディ

世界的なベストセラー、レオ・ブースカーリア原作の「葉っぱのフレディ」をベースにした「いのちの旅」。大型立体ハイビジョン映像と風や振動、耳元でささやくような音響などが一体となった臨場感溢れるシアター。

一本のユリノキに生まれた葉っぱのフレディが、移り変わる四季の中で仲間達と様々な経験をし、「いのち」について物思う姿が、震災から再生した神戸の街の姿を交えて描かれる。いのちを慈しむ心や生きる勇気を感じることができる。

①声の出演 齊藤由貴、小林薫

②上映時間 約 13 分

③発光ダイオード（LED）字幕表示システム

聴覚障害者のためにスクリーンの下に取り付けたもので、LED（発光ダイオード）の電光文字で、映像に合わせて登場人物のせりふなどを一度に最大 16 文字表示することができる。

このシステムは、ライオンズクラブ国際協会 335 複合地区及び特定非営利活動法人デフピープルから、人と防災未来センターに寄贈いただいたものである。（平成 18 年 1 月 16 日設置）

④その他 同時通訳器 50 台（英語・中国語・韓国語）

(2) 東日本大震災 津波の傷跡 2011-2013

被災地の定点観測に基づく、3D ドキュメンタリー作品。津波被災地のありのままの姿を伝える。

①制作 NHK メディアテクノロジー

②監督 智片通博

③ナレーション 濱中博久

④撮影地 岩手県 宮古市田老地区、陸前高田市
宮城県 気仙沼市、南三陸町、仙台市若林区ほか

⑤上映時間 約 24 分

2 水と減災について学ぶフロア：3 階

(1) いのちの星の奇跡

真白い森の白フクロウが、さまざまな動物や植物を育む奇跡の星、宇宙に浮かぶ水の惑星—地球—について語る。水から生まれる命の躍動的な姿を、手影絵を通して表現している。

・宇宙に浮かぶ水の惑星

・影絵による水と動植物、人間のつながり

・水の恵みと風水害の脅威

①手影絵 劇団かかし座

②ナレーション 池田昌子

(2) 水辺のギャラリー

水の恵みを受けている人々の暮らしを、風景写真（12点）で映し出している。

- ・ ガンジス川（インド）
- ・ 水の都ベネチア（イタリア）
- ・ 桂林（中国）
- ・ 棚田（マレーシア）
- ・ イエローストーンの間欠泉（アメリカ）
- ・ イグアスの滝（ブラジル・アルゼンチン）
- ・ ガンジス川の沐浴場（インド）
- ・ ベネチアのゴンドラ（イタリア）
- ・ 水上マーケット（タイ）
- ・ 田植え（マレーシア）
- ・ 魚釣り（北米）
- ・ 川遊び（兵庫県）

(3) 水の星の賛歌

自然の水環境の中での、豊かな水と自然の恵みに支えられた私たちの豊かな暮らし、それは、風水害に遭遇する危険性、災害の脅威と隣り合わせであることを忘れてはならない。水がもたらす恵みと災いについて、大型映像とナレーションを使い伝えることにより、川の近くに住むことが潜在的にもっている風水害の危険性に警鐘を鳴らす展示となっている。

- ・ 降雨→森の保水→川の形成等、水循環の流れ
- ・ 水の恵みに支えられた流域での生活風景
- ・ 風水害の発生

① 2009 年九州集中豪雨 ② 2004 年台風 23 号円山川 ③ 2009 年佐用町水害
〔映像内容〕

2009.7.24 福岡市

（雨の降る中買い物袋をもつ人→地面をたたきつける雨→屋根をたたきつける雨）

2005.9.6 博多（台風 14 号）（水路からあふれる水）

2009.7.25 広島県呉市（荒れる川）

2008.7 金沢市（流れるゴミ箱→暗渠に詰まる木々）

2004.10.21 出石川（台風 23 号）（ヘリコプターからの空撮）

2006.11.6 宮崎市・東郷町（台風 14 号）

（水に吞まれひっくり返った倉庫→水没したゴミ収集車）

2004.10.21 豊岡市（台風 23 号）（水に沈む街、車）

2009.8.10 岡山県美作市（台風 9 号）（土砂に埋もれた家と車）

2005.9.6 鹿児島市（台風 14 号）（倒れた大木と信号機）

(4) 水の星の賛歌から風水害の脅威への通路部分

風水害の被害写真の展示

- ・ ベトナムの水没した街

- ・オーストリアの水害にあった山岳地帯
- ・アメリカの竜巻の様子
- ・アメリカの竜巻に破壊された住宅
- ・ハリケーンカトリーナの NASA 衛星写真

(5) 風水害の脅威

上下二段の150インチの大型スクリーンで、国内外で発生した台風、ハリケーン、洪水等の実写映像を映し出し、風水害の脅威を体感できる。

〔映像内容〕

- ・阪神大水害（1938年・昭和13年）
新神戸～加納町、元町、二宮など、神戸周辺（フィルム提供：浅田さん）
- ・2006年福岡台風14号（家を流そうとする濁流→流れてきた岩石など→濁流を命綱頼りに渡る→暴風にけむる街→街を襲う強風→救急車とサイレンの音→地下街に流れ込む濁流）
- ・2004年イギリスコーンウォール州ボスキャッスル(BBC)（濁流に流される車の群れ）→アメリカ(BBC)（流される牧場のサイロ→流され崩れる白い家）
- ・2006年福岡台風14号（濁流、道をふさぐ）

（幕間の映像）

伊勢湾台風→ハリケーンカトリーナ→佐用町水害

（風水害の被害写真）

- ・ハリケーンカトリーナ（米国）（2枚）
- ・集中豪雨による土石流（イタリア）
- ・サイクロン・アイラ（バングラデシュ）（2枚）
- ・モンスーンによる洪水（ベトナム）

(6) 市民ギャラリー

風水害の脅威に立ち向かう、市民や国内外の防災機関、兵庫県等の防災対策の取り組みを吊りパネルで紹介している。

- ・DRA 国際防災機関の風水害被災地における支援活動
- ・人と自然が仲良く共生できる川づくりの取り組みなど
- ・マラウィ共和国での堤防強化（ISDR）
- ・リベリア共和国での排水設備修復（ISDR）
- ・バングラサイクロンシェルター（UNCRD）
- ・コスタリカフルタイヤで堤防（ADRC）
- ・アジアコーカサス研修（ADRC）
- ・土盛り上の住宅、トイレ（EDM）
- ・計画的・重点的な治水対策（兵庫県）
- ・風水害 雨量・水位情報（兵庫県）
- ・防災情報・危機情報の提供（兵庫県）
- ・佐用町台風9号の復旧状況（兵庫県）
- ・六甲砂防事務所 六甲グリーンベルト事業（国土交通省）
- ・兵庫県義援金プロジェクト（兵庫県）

- ①インドネシア スマトラ沖大地震・津波（2004 年 12 月）
- ②米国 ハリケーンカトリーナ（2005 年 8 月）
- ③インドネシア ジャワ島中部地震（2006 年 5 月）
- ④ミャンマー サイクロンナルギス（2008 年 5 月）
- ⑤中国 四川省大地震（2008 年 5 月）

（7）あしたへ向かって

- ・防災・減災への取り組みについて考え、語り合う交流サロン
- ・展示内容を振り返り、自らが防災・減災対策に取り組むための必要な情報を得たり、きっかけを見つけるコーナー
- ・小・中・高校、大学生による取り組み事例（ぼうさい甲子園の表彰事例）紹介（平成 23 年 9 月から東館 2 階へ移動）
- ・ひょうご防災新聞シリーズ（神戸新聞連載（月 2 回）記事をめぐりパネル化）
- ・最近のトピックスコーナー（新聞記事など最近の話題の提供）
- ・防災学習パソコン 5 台（防災専門機関 H P 等の学習ページに直接リンクしている）
 - ①自然災害について学ぼう（防災科学技術研究所）
 - ②防災危機管理 e カレッジ（消防庁）
 - ③朝日防災学検定（朝日新聞社）
 - ④兵庫県 地域の風水害対策情報（兵庫県庁）
 - ⑤震度 6 強体験シミュレーション（内閣府）
 - ⑥NHK 東日本大震災アーカイブス（NHK）
 - ⑦「クロスロード」ゲームで学ぶ防災・減災
 - ⑧CG「今、淀川が決壊したら」（国土交通省）
- ・特別展示「東日本大震災とこれからの防災・減災」
 - 東日本大震災の被害状況、復旧状況や東南海・南海地震への備えについて紹介
- ・資料室からのお知らせコーナー
- ・BGM 「しあわせ運べるように」（日本語版、中国語版）
- ・エピローグ 壁画「宇宙から見た地球」

（8）多目的スペース

研修、ワークショップ、企画展等で随時活用している。

平成 25 年度から、南海トラフ巨大地震に係る展示（津波想定等の紹介）を常設化し、継続して実施している。

I 章 展示

3 節 企画展の概要

1 項 平成25年度に開催した企画展等（企画展、イベント、出展・アウトリーチ）一覧

<企画展>

	開催期間	名 称	参加人数
1	3月26日(火)～ 6月30日(日)	東日本大震災から2年 復旧・復興の現在～阪神・淡路の地から、私たちにできること	72,684
2	7月20日(土)～ 9月 1日(日)	夏休み防災未来学校 2013	12,671
3	7月20日(土)～ 9月 1日(日)	夏休み防災未来学校 2013 企画展示 「減災グッズ体験コーナー」	670
4	8月13日(火)～ 8月25日(日)	夏休み防災未来学校 2013 企画展示 「ザ ロケット ゴールドスターのひらめき 2 コマ漫画 ギャラリー」	200
5	8月20日(火)～ 9月 1日(日)	夏休み防災未来学校 2013 企画展示 「六甲山の災害展 2013」	3,594
6	9月18日(水)～10月27日(日)	現地調査報告展示 (No.33 山口・島根豪雨、No.34 台風18号京都豪雨)	3,450
7	9月25日(水)～12月 8日(日)	マイ減災マニュアルをつくろう！大地震発生！・・・・・・ 「そのとき」どのように行動するのか	35,940
8	10月29日(火)～11月17日(日)	ジャンボひまわりコンテスト	4,000
9	10月29日(火)～11月 4日(月・振休)	大槌町定点観測展	3,000
10	11月12日(火)～12月 1日(日)	J A M S T E C 展 2013 「海からわかる地震と津波～防災研究最前線！～」	11,930
11	12月 3日(火)～ 1月 5日(日)	減災グッズ展 2013 part.2 ～いつもそばにおきたい減災用品	2,700
12	12月17日(火)～ 3月 2日(日)	資料室企画展 いま、撮影する「阪神・淡路大震災」－「震災を追体験する」方法として、定点観測写真を考える－	13,452
13	12月20日(金)～ 1月13日(月祝)	現地調査報告展示 (No.36 台風30号 Haiyan フィリピン)	400
14	1月 7日(火)～ 2月 2日(日)	こころを伝える絵手紙展	2,500
15	1月15日(水)～ 3月 2日(日)	1995.1.17 もう一度振り返る阪神・淡路大震災 震災19年 企画パネル展	7,600
16	1月15日(水)～ 3月 2日(日)	防災力強化県民運動ポスターコンクール入賞作品展	3,900
17	3月 4日(火)～ 3月30日(日)	減災デザイン・プランニングコンペ成果展示	1,200
18	3月 4日(火)～ 3月30日(日)	現地調査報告展示 (No.37 関東豪雪、No.36 台風30号 Haiyan フィリピン、No.34 台風18号京都豪雨)	1,200
19	3月11日(火)～	東日本大震災3年 3.11「復興地」マップ	9,495

<イベント>

	開催日	名 称	参加人数
1	5月 4日(土祝)	ジャンボひまわりの苗プレゼント&育て方講習会	209
2	7月20日(土)～ 8月11日(日)	夏休み防災未来学校 2013 「ロープワークで本結びストラップをつくろう！」	企画展 夏休み 防災未来 学校 2013 に 含む
3	7月20日(土)～ 8月11日(日)	夏休み防災未来学校 2013 「共振模型ゆらゆら3兄弟をつくろう！」	
4	8月13日(火)～ 9月 1日(日)	夏休み防災未来学校 2013 「ストロー建築スタジアム」	
5	8月13日(火)～ 9月 1日(日)	夏休み防災未来学校 2013 「ロープワークで本結びミサンガをつくろう！」	
6	7月20日(土)	夏休み防災未来学校 2013 「子ども減災講談 稲むらの火・つなみてんでんこ」	

	開催日	名 称	参加人数
7	7月20日(土)、 7月27日(土) 8月 3日(土)	夏休み防災未来学校 2013 「もしもの備えを携帯! マイ0次ポーチをつくろう!」	企画展 夏休み 防災未来 学校 2013に 含む
8	7月21日(日)	夏休み防災未来学校 2013 「夏のおはなしひろば」	
9	7月28日(日)	夏休み防災未来学校 2013 「はじめての絵手紙教室～大切なひとに気持ちを届けよう～」	
10	8月 1日(木)～ 8月 2日(金)	夏休み防災未来学校 2013 「地震体験車で地震の揺れを体験しよう!」	
11	8月 4日(日)	夏休み防災未来学校 2013 「ひとぼう探検ツアー～ミュージアムの舞台裏をのぞいてみよう!」	
12	8月 4日(日)、 8月17日(土)	夏休み防災未来学校 2013 「ひまわりおじさんの防災腹話術」	
13	8月10日(土)、 8月18日(日)	夏休み防災未来学校 2013 「ペットボトル地震計をつくろう!」	
14	8月11日(日)	夏休み防災未来学校 2013 「摂南大学『防災ヴィレッジ』ストロー建築で丈夫な建物を作ろう!」	
15	8月11日(日)	夏休み防災未来学校 2013 「摂南大学『防災ヴィレッジ』ストローで遊ぼう! & 防災クイズ!」	
16	8月17日(土)	夏休み防災未来学校 2013 「ぼうさい・げんさいゲームで遊ぼう!」	
17	8月24日(土)～ 8月25日(日)	夏休み防災未来学校 2013 「ザ ロケット ゴールドスターのひらめき2コマ漫画道場!」	
18	8月31日(土)～ 9月 1日(日)	夏休み防災未来学校 2013 「かんたん!身近な素材で手作り防災グッズ」	
19	8月31日(土)～ 9月 1日(日)	夏休み防災未来学校 2013 「元気にあそんで、たのしく防災をまなぼう!」	
20	11月 3日(日)	大槌町定点観測展開連フォーラム「定点観測を通じた被災地学生交流と復興まちづくり」	33
21	12月 7日(土)	減災グッズ展2013 part.2 関連イベント「アンケートDAY」	76
22	12月15日(日)	減災グッズ展2013 part.2 関連イベント「減災グッズ体験デー」	130
23	12月17日(火)	減災グッズ展2013 part.2 関連イベント「減災グッズプレゼンター」	55
24	12月22日(日)	おはなしひろば冬	32
25	1月12日(日)	コンサート「希望が花咲く日」- 阪神・淡路大震災へ想いを馳せる -	150
26	1月17日(金)	詩の朗読と音楽の夕べ	66
27	1月22日(水)～ 1月26日(日)	歌劇ビジュア公演	738
28	1月25日(土)	イザ! 美かえる大キャラバン! 2014 前夜祭	50
29	1月26日(日)	イザ! 美かえる大キャラバン! 2014	1,500
30	2月 1日(土)	資料室企画展 いま、撮影する「阪神・淡路大震災」- 「震災を追体験する」方法として、定点観測写真を考える- 関連イベント「記念トークイベント」	30
31	2月22日(土)	ひとぼう減災セミナー 2014「南海トラフ巨大地震大津波を迎え撃つためには- 備えあれば憂いなし -」	82
32	3月 9日(日)	コンサート「希望が花咲く日」- 東日本大震災へ想いを馳せる -	150
33	3月16日(日)	減災デザイン・プランニングコンペ「プレゼンテーション・デイ&2次審査会」	60
34	3月21日(金祝)	ひとぼうユースミーティング	25
35	3月23日(日)	おはなしひろば春	9



＜出展・アウトリーチ＞

	開催期間	名 称	参加人数
1	4月29日(月祝)	COMIN' KOBE13 ブース出展「震災ヴィレッジ」	30,000
2	5月24日(金)	第3回神戸マラソン絵手紙教室&防災学習教室	100
3	6月21日(金)、6月29日(土) 7月11日(木)、7月13日(土) 7月22日(月)、8月5日(月) 9月5日(木)、9月7日(土) 9月9日(月)、9月26日(木) 9月29日(日)、10月3日(木)	たかつき市民減災マイスター講座2013	570
4	8月24日(土)～8月25日(日)	NHK 防災パーク 2013 ブース出展、プログラム提供	20,000
5	8月29日(木)～9月1日(日)	神戸市「防災カフェ」プログラム提供	80
6	10月26日(土)～10月27日(日)	はじめての絵手紙教室 in 三宮 HATENA	33
7	10月30日(水)～11月1日(金)	緑十字展 2013in 大阪 協力出展	19,000
8	11月2日(土)～11月3日(日)	阪神南ふれあいフェスティバル ブース出展	32,000
9	11月15日(金)～11月17日(日)	神戸マラソン 2013EXPO「感謝と友情」主催者ブース 協力出展	30,500
10	11月20日(水)	減災～あすへの備え 21世紀文明シンポジウム エントランス展示	600
11	11月24日(日)	全国科学博物館協議会近畿ブロック「関西の博物館がやってくる」ワークショップ『ストロー建築をつくろう』	50
12	1月17日(金)	ひょうご安全の日のつどい ブース出展「減災デザイン・ヴィレッジ」	750
13	1月30日(木)	第59回神戸オフィスフェア 協力出展	2,318
14	2月6日(木)～2月7日(金)	第18回震災対策技術展 ブース出展	15,000
15	3月15日(土)～3月16日(日)	知って！備えて！BKぼうさい未来フェア 協力出展	10,000

2 項 企画展の概要

<企画展>

1 東日本大震災から2年 復旧・復興の現在～阪神・淡路の地から、私たちにできること（3月26日～6月30日）

東日本大震災の復旧・復興・支援に関わっている阪神・淡路の大学生等若者が、今どのようなことに取り組んでいるのかをパネル等で紹介。



会場

2 夏休み防災未来学校 2013（7月20日～9月1日）

子どもから大人まで楽しみながら、防災・減災について学ぶことができる各種参加型プログラムを多数開催。

3 夏休み防災未来学校 2013企画展示「減災グッズ体験コーナー」（7月20日～9月1日） いろいろな防災・減災グッズを展示紹介。



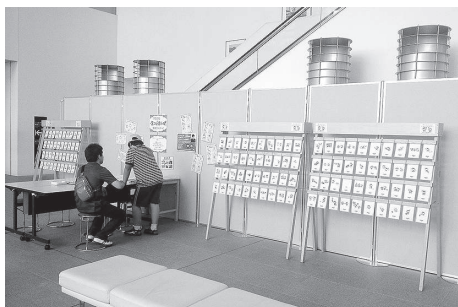
会場



来場者の様子

4 夏休み防災未来学校 2013企画展示「ザ ロケット ゴールドスターのひらめき2コマ漫画ギャラリー」（8月13日～8月25日）

神戸市のワケトンでおなじみのイラストレーター山崎さんの2コマ漫画を展示。



会場



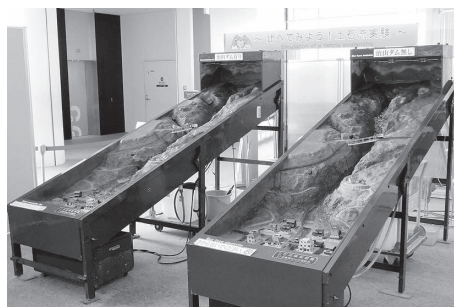
来場者の様子

5 夏休み防災未来学校 2013 企画展示「六甲山の災害展 2013」（8月20日～9月1日）

六甲山でこれまで起きた自然災害と、それを防ぐための取り組みを紹介するほか、実験装置を使って集中豪雨や土石流を再現。



会場



土石流実験装置

6 現地調査報告展示（No. 33 山口・島根豪雨、No. 34 台風 18 号京都豪雨）

（9月18日～10月27日）

センターの調査研究活動によって得られた研究成果を、研究者のみならず、広く多くの人々と共有する目的で発行している「DRI 調査研究レポート」を発行しており、その中の「平成25年7月山口島根豪雨」「平成25年9月台風18号」を展示。

7 マイ減災マニュアルをつくろう！大地震発生！・・・「そのとき」どのように行動するのか（9月25日～12月8日）

センターでは「用品の備え」を促すため、常設展示会場にてオリジナルの「減災グッズチェックリスト」を配布しているが、それに続き「行動の備え」をテーマとした、いざというときの行動に役立つような自分だけのオリジナルマニュアルを持ち帰っていたく企画展を開催。



会場



オリジナルマニュアル

8 ジャンボひまわりコンテスト（10月29日～11月17日）

「ジャンボひまわりコンテスト」は、阪神・淡路大震災発生当時、瓦礫の街に咲き、被災者の心の支えとなったひまわりを原点として、例年開催されている。全国各地から応募された、ひまわりの写真と育成時の感想やエピソードを紹介。



会場

9 大槌町定点観測展（10月29日～11月4日）

東日本大震災で被災した岩手県大槌町の様子を、震災以前の写真を元に、地元の大槌高等学校の生徒が撮影した定点観測写真を展示。

10 JAMSTEC展 2013「海からわかる地震と津波～防災研究最前線！～」

（11月12日～12月1日）

独立行政法人 海洋研究開発機構（JAMSTEC）が取り組んでいる地震津波・防災研究にかかるパネルや模型を展示するとともに、東日本大震災の津波・地震の影響で海洋環境が激変した東北の海洋生態系の調査研究や、南海トラフで発生する地震被害を軽減するための調査観測・シミュレーション・減災施策の検討等を進める研究等を紹介。



会場

11 減災グッズ展2013 part.2 ～いつもそばにおきたい減災用品

(12月3日～1月5日)

職場や家庭で「いつもそばに置いておきたい減災用品」をテーマとして、防災・減災用品の開発・販売を行う各種企業・団体から応募された用品を紹介。



会場



観覧者の様子

12 資料室企画展 いま、撮影する「阪神・淡路大震災」－「震災を追体験する」方法として、定点観測写真を考える－ (12月17日～3月2日)

人と防災未来センターの語り部ボランティアでもあった故・大仁節子さんが阪神・淡路大震災直後に撮影した神戸市中央区と、大仁さんの住居のあった神戸市東灘区森南町の定点観測写真を展示するとともに、新たに立命館大学の学生により同じ場所の現在の様子を撮影した写真を並べて展示。



会場

13 現地調査報告展示 (No.36 台風30号 Haiyan フィリピン) (12月20日～1月13日)

センターの調査研究活動によって得られた研究成果を、研究者のみならず、広く多くの人々と共有する目的で発行している「DRI調査研究レポート」を発行しており、その中の「平成25年11月台風30号(Haiyan)」を展示。

14 こころを伝える絵手紙展（1月7日～2月2日）

東日本大震災被災地宛に描かれた絵手紙と、そのメッセージを目にした東北の方々からの返信の絵手紙や、神戸マラソンEXPO会場で展示されたランナーへの応援メッセージが描かれた絵手紙を展示。



会場



会場

15 1995.1.17もう一度振り返る阪神・淡路大震災 震災19年企画パネル展
(1月15日～3月2日)

次年度に阪神・淡路大震災から20周年を迎えるにあたり、改めて震災当時の被災状況や被災地が抱えた問題を伝えるため、資料室が所蔵する写真資料のパネル展示を実施。



会場



観覧者の様子

16 防災力強化県民運動ポスターコンクール入賞作品展（1月15日～3月2日）

ひょうご安全の日推進県民会議が兵庫県内の小・中学生、高校生を対象に募集した、「防災」をテーマとしたポスター作品を展示。



会場

17 減災デザイン・プランニングコンペ成果展示（3月4日～3月30日）

芸術工学会主催で実施されている、減災をテーマとしたデザインプランの展示紹介。



会場

18 現地調査報告展示（No. 37 関東豪雪、No. 36 台風 30 号 Haiyan フィリピン、No. 34 台風 18 号京都豪雨）（3月4日～3月30日）

センターの調査研究活動によって得られた研究成果を、研究者のみならず、広く多くの人々と共有する目的で発行している「DRI 調査研究レポート」を発行しており、その中の「平成26年2月豪雪被害」等を展示。

19 東日本大震災3年 3.11「復興地」マップ（3月11日～）

東日本大震災の被災地＝復興地の各地における被害や復興に関わるデータを市町村単位でまとめ、復興地の地図に反映させ展示。

<イベント>

1 ジャンボひまわりの苗プレゼント＆育て方講習会（5月4日）

被災当時、瓦礫の街に咲き、心のささえとなったひまわり。その原点を見つめ続ける企画として、例年、ひまわりの夢企画と共同で「ジャンボひまわりコンテスト&わたしのひまわりものがたり」を行っており、今年の募集開始（ひまわりの育成開始）にあたり、ひまわりを大きく育てる方法をレクチャーし、特別大きく育つひまわりの苗をプレゼントする催しを行った。



講習会の様子



会場受付

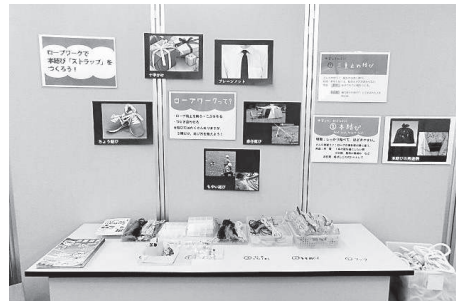
2 夏休み防災未来学校 2013「ロープワークで本結びストラップをつくろう！」

(7月20日～8月11日)

ロープワークのひとつである「本結び」を覚えながら、かわいいオリジナルストラップを作る体験プログラムを実施。



参加者の様子



会場

3 夏休み防災未来学校 2013「共振模型ゆらゆら3兄弟をつくろう！」

(7月20日～8月11日)

建物の高さやゆれ方の関係が学べる、簡単な模型を作る体験プログラムを実施。



プログラム風景

4 夏休み防災未来学校 2013「ストロー建築スタジアム」(8月13日～9月1日)

ストローを使って丈夫な家を作り、その家がどれだけの重さに耐えられるのかを試してみる体験プログラムを実施。



参加者の様子

5 夏休み防災未来学校 2013「ロープワークで本結びミサンガをつくろう！」

(8月13日～9月1日)

ロープワークのひとつである「本結び」の結び方を覚えながら、オリジナル・ミサンガを作る体験プログラムを実施。



プログラム風景



参加者の作品

6 夏休み防災未来学校 2013「子ども減災講談 稲むらの火・つなみてんでんこ」

(7月20日)

昔から語り継がれる津波の物語を伝統の話芸「講談」でおくるプログラム。



プログラム風景

7 夏休み防災未来学校 2013「もしもの備えを携帯！ マイ0次ポーチをつくろう！」

(7月20日、7月27日、8月3日)

いざというときにも役立つグッズを携帯できるかわいいポーチを作るワークショッププログラム。



プログラム風景



参加者の様子

8 夏休み防災未来学校 2013「夏のおはなしひろば」（7月21日）

毎年恒例の絵本や紙芝居の読み聞かせを実施。

9 夏休み防災未来学校 2013「はじめての絵手紙教室～大切なひとに気持ちを届けよう～」
（7月28日）

「へたでいい、へたがいい」の絵手紙。描いた作品のうち1点を1月に開催する「絵手紙展」にて展示。



プログラム風景

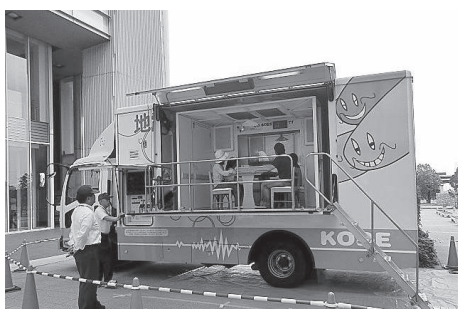


参加者の様子

10 夏休み防災未来学校 2013「地震体験車で地震の揺れを体験しよう！」

（8月1日～8月2日）

地震体験車で大地震の揺れを体験するプログラムを実施。



地震体験車ゆれるん



会場の様子

11 夏休み防災未来学校 2013「ひとぼう探検ツアー～ミュージアムの舞台裏をのぞいてみよう！」（8月4日）

普段は関係者しか入ることのできないミュージアムのバックヤードをご見学いただく特別ツアーを実施。



ツアー説明



展示会場探索

- 12 夏休み防災未来学校 2013「ひまわりおじさんの防災腹話術」(8月4日、8月17日)
防災・減災を腹話術で語るショーを実施。



プログラム風景

- 13 夏休み防災未来学校 2013「ペットボトル地震計をつくろう！」
(8月10日、8月18日)
本物の地震計にふれ、しくみを学びながら、本物と同じしかけの手作り地震計を作る
体験プログラムを実施。



プログラム風景



参加者の様子

- 14 夏休み防災未来学校 2013「摂南大学『防災ヴィレッジ』ストロー建築で丈夫な建物
を作ろう！」(8月11日)
大学生に習いながら、ストローを部材に丈夫な建物を作る工作ワークショップを実施。



参加者の様子

15 夏休み防災未来学校 2013「摂南大学『防災ヴィレッジ』ストローで遊ぼう！&防災クイズ！」（8月11日）

ストローを使った工作ワークショップと防災に関するクイズを出題。

16 夏休み防災未来学校 2013「ぼうさい・げんさいゲームで遊ぼう！」（8月17日）

防災・減災について遊びながら学べるいろいろなゲームを紹介。



クロスロード



会場

17 夏休み防災未来学校 2013「ザ ロケット ゴールドスターのひらめき2コマ漫画道場！」（8月24日～8月25日）

いざというときを切り抜けるひらめきアイデアを漫画で描く漫画ワークショップを神戸市のワケトンでおなじみのイラストレーター山崎さんを講師に迎えて開催。



プログラム風景

18 夏休み防災未来学校 2013「かんたん！身近な素材で手作り防災グッズ」（8月31日～9月1日）

新聞紙やビニール袋など身近な素材を使って、非常時に役立つ防災グッズを作るワークショップを実施。



プログラム風景



参加者の様子

19 夏休み防災未来学校 2013「元気にあそんで、たのしく防災をまなぼう！」

(8月31日～9月1日)

非常時におとずれるピンチを乗り越えるために役に立つグッズを暗いテントの中から見つけ出す「まっくらテント」等あそびながら防災・減災について学ぶプログラムを実施。



おえかきチェックリスト



まっくらテント

20 大槌町定点観測展関連フォーラム「定点観測を通じた被災地学生交流と復興まちづくり」(11月3日)

「大槌町定点観測展」の開催にあわせ、定点観測写真を撮影した岩手県立大槌高等学校の学生と神戸大学近藤研究室の学生達による、定点観測を通じた被災地学生交流が大槌町の復興まちづくりにどのように寄与できるかについて考えるフォーラムを開催。

21 減災グッズ展2013part.2 関連イベント「アンケートDAY」(12月7日)

減災グッズ展の開催にあわせ、来場者に自分の備えについて考えていただくアンケートを実施。



参加者の様子

22 減災グッズ展2013part.2 関連イベント「減災グッズ体験デー」(12月15日)

減災グッズ展の開催にあわせ、来場者が展示製品を実際に手にとることができる体験デーを実施。



会場の様子



減災グッズの説明を受ける参加者

- 23 減災グッズ展2013part.2 関連イベント「減災グッズプレゼンダー」(12月17日)
減災グッズ展の開催にあわせ、防災用品を開発・販売している企業がその製品の特徴を伝え、また、備える側の一般ユーザーの立場からどのような観点が大切であるかを考えるプレゼンダーを実施。

- 24 おはなしひろば冬(12月22日)
恒例の絵本や紙芝居の読み聞かせを実施。

- 25 コンサート「希望が花咲く日」ー阪神・淡路大震災へ想いを馳せるー(1月12日)
「希望」をテーマとした阪神・淡路大震災に想いを馳せるコンサートを開催。

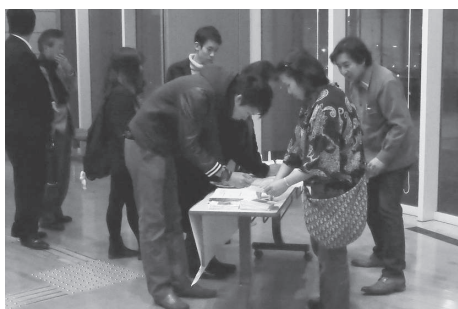


会場



ステージ上の出演者

- 26 詩の朗読と音楽の夕べ(1月17日)
阪神・淡路大震災後、地震等の災害にまつわる詩を公募し、この詩を朗読する「詩の朗読と音楽の夕べ」を例年開催しています。本年度は、昨年度に引き続き人と防災未来センターを会場として、詩の作者および市民有志による朗読と、歌手の深川和美さん、ピアニストの多久雅三さんによるミニ・コンサートを開催。



会場受付



出演者

- 27 歌劇ビジュー公演(1月22日～1月26日)
阪神・淡路大震災から19年を迎え、かけがえのない人々への想いと、新たに紡いだ復興への希望を語り継ぐ歌劇を上演。

28 イザ！美かえる大キャラバン！2014 前夜祭（1月25日）

H A T神戸連携イベントとして例年開催している「イザ！大かえる大キャラバン！（平成24年度までは「イザ！かえる大キャラバン！」の名称で開催）」に出展している防災啓発・教育に携わる団体が、それぞれの取り組み報告や情報交換を行う場として、「イザ！美かえる大キャラバン！」の前日に前夜祭として本年度初開催。



会場入口



参加者による活動報告

29 イザ！美かえる大キャラバン！2014（1月26日）

例年 J I C A 関西と人と防災未来センターを会場として開催される、広く県民が参加できる防災イベント。夏休み防災未来学校実施のプログラム「〇〇を探し出そう！まっくらテント体験」を実施。



まっくらテント



ロビー会場

30 資料室企画展 いま、撮影する「阪神・淡路大震災」－「震災を追体験する」方法として、定点観測写真を考える－関連イベント「記念トークイベント」（2月1日）

資料室企画展関連イベントとして、震災の記憶を伝える試みとして「定点観測写真の撮影」を行っている全国各地の団体の中から、「大槌町定点観測プロジェクト」「NPO 法人20世紀アーカイブ仙台」「立命館大学『減災×学びP』+DRI資料室」の3団体を招いて活動内容報告等を行うトークイベントを開催。

31 ひとぼう減災セミナー 2014「南海トラフ巨大地震大津波を迎え撃つためには一備えあれば憂いなし」（2月22日）

独立行政法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）地震津波・防災研究プロジェクトプロジェクトリーダー金田義之氏を講師に迎え、南海トラフ巨大地震大津波をテーマとしたセミナーを開催。



講師（JAMSTEC 金田氏）



会場

32 コンサート「希望が花咲く日」－東日本大震災へ想いを馳せる－（3月9日）

1月の開催に続き、「希望」をテーマとした東日本大震災大震災に想いを馳せるコンサートを開催。



ステージ上の出演者



終演後風景

33 減災デザイン・プランニングコンペ「プレゼンテーション・デイ & 2次審査会」 （3月16日）

「減災デザイン・プランニングコンペ成果展示」の開催にあわせ、1次審査を通過した提案 22 点のうち、提案者本人あるいは映像参加による 18 点のプレゼンテーション及び審査員 8 名による 2 次審査を行い、賞の最終選定を実施。



会場



コンペ受賞者

34 ひとぼうユースミーティング「東日本大震災3年 今取り組むこと、これからすること・できること」(3月21日)

東日本大震災被災地で災害支援活動を行っている大学生や社会人のユース団体が、それぞれの活動報告を行い、今後の課題等を話し合うイベントを開催。



会場



参加者

35 おはなしひろば春(3月23日)

恒例の絵本や紙芝居の読み聞かせを実施。

＜出展・アウトリーチ＞

1 COMIN' KOBE13 ブース出展「震災ヴィレッジ」(4月29日)

阪神・淡路大震災を風化させず、若い世代へ震災を考えるきっかけを作るために神戸で開催される音楽イベント。会場内の「震災ヴィレッジ」にて防災グッズ体験コーナーを出展。



会場

2 第3回神戸マラソン絵手紙教室&防災学習教室(5月24日)

第3回神戸マラソン参加ランナーに配布される絵手紙を描く絵手紙教室と、神戸マラソンのコンセプトでもある阪神・淡路大震災をテーマとした防災学習教室を神戸市立若宮小学校で神戸マラソン実行委員会と共同で開催。



防災学習教室



絵手紙教室

- 3 たかつき市民減災マイスター講座2013（6月21日、6月29日、7月11日、7月13日、7月22日、8月5日、9月5日、9月7日、9月9日、9月26日、9月29日、10月3日）

高槻市立公民館主催の防災・減災の知識と技術を身につける市民講座への講師派遣を実施。

- 4 NHK防災パーク2013 ブース出展、プログラム提供（8月24日～8月25日）

NHK放送センター（東京）で開催。子どもやファミリー向けプログラムとして、夏休み防災未来学校フリープログラム「ストロー建築」「おりがみ・プレート」等を実施。



ローワーク会場



ストロー建築会場

- 5 神戸市「防災カフェ」プログラム提供（8月29日～9月1日）

神戸市危機管理センターにて開催。神戸市危機管理室主催の防災イベント「防災カフェ」に協力出展し、夏休み防災未来学校プログラム「ペットボトル地震計をつくろう！」を実施。

- 6 はじめての絵手紙教室 in 三宮HATENA（10月26日～10月27日）

人と防災未来センターで1月に開催される「ここを伝える絵手紙展」及び「神戸マラソンEXPO」の各会場で展示される作品を描く絵手紙教室を開催。



会場



参加者の様子

- 7 緑十字展 2013in 大阪 協力出展（10月30日～11月1日）

インテックス大阪で開催。主催者からの協力出展依頼に応じ、「南海トラフ巨大地震」の被災想定等をまとめた地図やパネルを展示。

8 阪神南ふれあいフェスティバル ブース出展（11月2日～11月3日）

尼崎市尼崎の森中央緑地で開催。ひょうご安全の日推進協議会、兵庫県住宅再建共済基金と3社合同で出展。



ひょうご防災バビリオン会場



防災楽習迷路

9 神戸マラソン2013EXPO「感謝と友情」主催者ブース 協力出展

（11月15日～11月17日）

神戸マラソン主催者ブースにて、資料配付及び資料室が所有する阪神・淡路大震災当時の写真をパネル展示。



会場



来場者の様子

10 減災～あすへの備え 21世紀文明シンポジウム エントランス展示（11月20日）

（公財）ひょうご震災記念21世紀研究機構主催で東京有楽町朝日ホールにて開催されたシンポジウム会場のエントランスで、来場者に人と防災未来センターを紹介するため、資料配付及びパネル展示を実施。また、「東日本大震災 津波の傷跡」を上映。



エントランス



「津波の傷跡」上映会場

11 全国科学博物館協議会近畿ブロック「関西の博物館がやってくる」ワークショップ『ストロー建築をつくろう』（11月24日）

全国科学博物館協議会近畿ブロック主催で大阪科学技術館で開催。兵庫県立人と自然の博物館、神戸市立青少年科学館等とともに、各施設のワークショッププログラムを提供。夏休み防災未来学校プログラム「ストロー建築」を実施。



会場



参加者の様子

12 ひょうご安全の日のつどい ブース出展「減災デザイン・ヴィレッジ」（1月17日）

1月17日「ひょうご安全の日」にあわせて、HAT神戸なぎさ公園で開催。資料配付及び防災グッズの展示紹介を実施。



会場

13 第59回神戸オフィスフェア 協力出展（1月30日）

神戸サンボーホールで開催。主催者からの協力出展依頼に応じ、「南海トラフ巨大地震」の被災想定等をまとめた地図やパネルを展示。



会場

14 第18回震災対策技術展 ブース出展（2月6日～2月7日）

パシフィコ横浜で開催。資料配付及び資料室所有の阪神・淡路大震災当時の写真パネルの展示を実施。



会場

15 知って！備えて！BKぼうさい未来フェア 協力出展（3月15日～3月16日）

NHK大阪放送局アトリウムで開催。主催者からの協力依頼に応じ、防災グッズや南海トラフ巨大地震被害想定パネル等を展示。



来場者の様子

I 章 展示

4 節 運営ボランティアの活動等

人と防災未来センターでは、運営スタッフとして、職員やアテンダントのほか、多数の運営ボランティアが加わっている。

運営ボランティアには、語学、手話、展示解説及び語り部の4種類があり、1人週1～2回、毎日25人程度が活動を行っている。

また、運営ボランティア有志が中心となって「防災未来サークル」が発足し、「防災グッズチェックリスト」の内容の検討や「夏休み防災未来学校」などへ参画している。

1 活動内容

区 分	共通の活動	専門の活動
語 学 (英・中・韓・西)	館内展示に関する来館者への解説、展示体験補助(ワークショップ運営)・誘導整理、ツアーガイド	外国語(英語・中国語・韓国語・スペイン語)、手話による来館者対応(施設案内・展示解説等)
手 話		来館者対応(施設案内、展示解説等)
展示解説		
語 り 部		西館3階又は1階ガイダンスルームにおける来館者への「震災体験の語り」

2 登録状況

運営ボランティアは1年毎の登録制(更新可)で、平成25年度末の登録者は146人となっている。

区 分		登録者数	性 別		年 代 別						
			男	女	～29	～39	～49	～59	～69	～79	80～
語 学	英 語	23	15	8	0	0	1	4	4	10	4
	中 国 語	13	4	9	2	0	1	3	4	2	1
	韓 国 語	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0
	ス ペ イ ン 語	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0
手 話		2	0	2	0	0	0	0	2	0	0
展 示 解 説		64	40	24	0	0	2	4	16	36	6
語 り 部		42	27	15	0	0	0	1	12	22	7
合 計		146	86	60	2	0	4	12	40	70	18

3 語り部による被災体験談

語り部による講話（被災体験談）を実施しており、同館1階ガイダンスルームでの講話実施状況は次のとおりである。

平成25年度は、前年度と比較し、回数は92%、聴講人数は90%となっている。

西館1階ガイダンスルームでの講話実施状況

区分	平成25年度		平成24年度	
	回数	聴講人数	回数	聴講人数
4月	54	3,317	67	3,895
5月	176	11,219	166	10,639
6月	102	5,696	119	6,491
7月	57	2,302	69	2,829
8月	34	1,265	27	1,062
9月	103	5,604	128	7,298
10月	163	8,918	183	10,443
11月	147	7,491	186	9,542
12月	125	8,034	92	6,024
1月	71	4,252	82	4,847
2月	79	3,325	86	4,581
3月	45	1,833	56	2,679
計	1,156	63,256	1,261	70,330

4 研究員による防災セミナー

小・中学生等を対象に、センター研究員による防災セミナーを実施している。

セミナーに際しては、センター独自のテキストを提供するほか、研究員の最新の研究成果なども、学習内容に盛り込んでいる。

この震災学習テキストは、対象に応じて、小学校低学年用には挿し絵を中心とした「じしんがおきると」、小学校高学年用には平易な表記による「地しんとしん災」、中学生用には「地震と震災」の3種類を作成し、活用している。また、水害の発生要因、種類、防災等について解説した「都市と水害」も活用している。

なお、小・中学生等を対象としたセミナーの実施状況は次のとおりである。

西館1階ガイダンスルームでの防災セミナー実施状況

区分	平成25年度		平成24年度	
	回数	聴講人数	回数	回数
4月	2	188	3	245
5月	3	239	4	238
6月	0	69	1	61
7月	0	256	4	253
8月	0	195	2	42

9 月	2	69	4	219
10 月	5	161	1	118
11 月	6	386	7	554
12 月	3	148	2	87
1 月	5	293	5	378
2 月	4	78	2	142
3 月	3	151	1	94
計	33	2,233	36	2,431

5 運営ボランティアの研修

運営ボランティアをはじめとするセンタースタッフ等を対象に、防災などの専門知識の向上や自己研さんの機会として、研修セミナーを開催している。

平成 25 年度研修セミナーの開催状況

回	日 時	参加 人数	内 容	講 師
1	H25. 5. 20 (月) 16:00 ~ 17:50	60 人	「10周年記念感謝のつどい」において、「これからの人防」と題して、人防が来るべき南海東南海地震・首都直下型地震をどう迎え討つのかについて河田センター長が講話	河田センター長
2	H25. 9. 8 (日) 8:30 ~ 18:00	66 人	防災施設見学 徳島県立防災センターを見学し、体験学習施設を体験	
3	H25. 12. 9 (月) 9:30 ~ 11:00	13 人	消防訓練	
4	H25. 12. 12 (月) 13:30 ~ 14:30	46 人	運営ボランティア研修及び交流会 「フィリピン台風被害のレイテ島タクロバン現地調査報告」	センター研究員 高田洋介氏
5	H25. 12. 12 (月) 14:50 ~ 17:00	35 人	運営ボランティア交流会	
6	H26. 2. 22 (土) 13:30 ~ 15:00	40 人	ひとぼう減災セミナー 2014 「南海トラフ巨大地震大津波を迎え 打つためには」	独立行政法人海洋研究開発機構 地震津波・防災研究プロジェクトリーダー 金田義行氏

I 章 展示

5 節 V I P 等の視察対応

人と防災未来センターには、一般来館者のほか、海外からは中央・地方政府の要人や大学関係者及び国際協力機構（JICA）が招聘した発展途上国の研修生などの視察がある。また、国内からは政府や地方自治体の幹部及び議会議員などの行政視察も多い。これらの団体からは、一般の展示見学に加え、センターの設立趣旨や機能や活動、あるいは阪神・淡路大震災の復興過程について説明を求められる事が多く、これらに対しては、センターの幹部職員、あるいは研究員が対応を行い、そのニーズに応えるよう努めている。

平成 25 年度にセンターに来訪し、一般見学以外にこのような対応を行った団体は、121 団体、1,227 人（うち海外 51 団体、607 人）であった。こうした視察対応は、センター業務のなかでも大きなウェイトを占めているが、これが契機となり、他の団体の来訪、研修への参加、新しい交流のきっかけになるなど、様々な波及効果を生み出している。

平成 25 年度 V I P 等の視察対応の実績

区 分	団体数	人数	主な団体等
海外の要人等	33	351	・ 在神戸パナマ共和国総領事館 チェヴァリエル総領事 (5/8,3/4) ・ 在日フランス大使館 マセ大使 (6/20) ・ 西オーストラリア州労働党 マクゴワン党首 (7/9) ・ 駐日パキスタン大使館 アーミル大使 (9/13) ・ 台北駐日経済文化代表処 沈代表 (3/5) ・ 東ティモール民主共和国 ソアレス法務大臣 (3/28) 他
国際協力機構（JICA）による招聘研修生	18	256	・ JICA 研修「中央アジア・コーカサス総合防災」(6/28) ・ JICA 研修「トルコ防災教育研修コース」(9/5) ・ JICA 研修「住宅・住環境改善・防災コース」 ・ JICA 国際防災研修コース（3 コース合同）(1/10) ・ JICA 研修「イラン国テヘラン地震防災、防災教育、博物館コース」(2/25) 他
国関係	18	100	・ 古屋圭司内閣府特命担当大臣（防災）(4/20) ・ 大阪管区气象台長 (7/26) ・ 警察庁警備局審議官 (11/12) ・ 消防庁防災課長 (1/17) ・ 参議院内閣委員会 (2/28) ・ 復興庁参事官 (3/5) 他

地方自治体	40	296	・ 静岡県理事 (5/22) ・ 沖縄県名護市議会総務財政常任委員会 (7/26) ・ 千葉県浦安市長 (11/15) ・ 神奈川県議会正副議長 (11/19) ・ 宮城県石巻市長 (1/21) 他
その他	12	224	・ NHK 神戸放送局新入局社員研修 (5/21) ・ 福島大学行政政策学類専門演習行政学ゼミ (9/26) ・ (一社) 東北経済連合会副会長 (12/5) ・ 宮城県文化振興財団理事長 (2/25) 他
合 計	121	1,227	

※上記のほか、取材等の目的で来館した報道機関の記者、旅行社等に対して、123件の広報・宣伝活動を行った。



古屋圭司内閣府特命担当大臣(防災)の視察
(平成 25 年 4 月 20 日)



参議院内閣委員会の視察
(平成 26 年 2 月 28 日)



東ティモール民主共和国ソアレス法務大臣
の視察 (平成 26 年 3 月 28 日)

Ⅱ章 資料収集・保存

- 1 資料収集と整理
- 2 資料室における相談業務・情報発信
- 3 震災資料の活用
- 4 資料を通じた交流・ネットワーク

1 節 資料収集と整理

1 項 一次資料

資料室で保管する震災資料は、「一次資料」（震災に直接関連する資料）と「二次資料」（図書・刊行物）に分類される。

1 一次資料の収集

資料室で保存する一次資料は、平成 14 年 4 月のセンター開館以前の事業で収集されてきた約 16 万点の資料と、開館後の調査・収集活動によって集められた資料からなる。

（1）開館前

開館前の事業とは、平成 7 年 10 月から兵庫県からの委託を受けた(財)21 世紀ひょうご創造協会によって開始された収集事業であり、また平成 10 年 4 月以降は(財)阪神・淡路大震災記念協会が、収集事業を継続すると共に、公開基準等を検討してきたものである。さらに平成 12 年 6 月から約 2 年間にわたり、兵庫県により「緊急地域雇用特別交付金事業」を活用した大規模な震災資料の調査事業が行われた。これら開館前の事業を通して、約 16 万点の資料が収集された（詳細は参考資料 6-(2) を参照）。

（2）開館後

平成 25 年度に行った資料収集調査は、計 6 回であった。平成 26 年 3 月末現在で、一次資料提供件数は 3,772 件（資料点数約 18 万 6 千点）となった（詳細は参考資料 6-(4) を参照）。

2 一次資料の公開

提供者との協議について、平成 16 年度末段階で、一次資料約 16 万点のうち約 70,000 点、提供先件数にして約 820 件が、公開について別途協議が必要とされていた。平成 17 年度以降、資料提供者と公開に向けての協議を進めたが、平成 19 年度末には協議が必要な残件数は約 270 件（約 55,000 点）となった。しかし、協議を進めていくにつれ、提供者の転居先が不明な場合も増えてきたため、未協議の資料目録の公開を先に進め、利用者からの閲覧希望がある資料を優先的に協議していく方針に変更した。これを受けて、平成 21 年度には今後個別協議が必要な資料、約 48,900 点の資料について目録公開の作業を行った。平成 25 年度には、253 件の提供者に対し、資料の公開条件を当センターに一任するよう求める文書を送付し、95 件から承諾を得た。

2項 震災資料の保存

1 環境調査・管理・保存

(1) 資料保存環境調査の実施

原資料の劣化を防ぎ、収集した時の状態を可能な限り維持・保存していくためには、資料保管に適した環境を整えることが必要である。そのため資料室では、主に資料収蔵スペースにおいて年1回の資料保存環境調査を実施し、調査結果に基づいた資料保存環境の整備を進めている。調査を定期化して今年度で10年目となった。

調査は資料保存環境の変化を調べるために前年度とほぼ同じ箇所（3階展示フロア内の収蔵スペース、5階の作業スペース、7階の2つの収蔵庫）で実施した。その結果、昆虫類および真菌類が捕獲された場所が確認されたので、収蔵庫内に粘着マットを置くなどの対策を継続的に実施している。また、清掃を強化するとともに、専門業者と相談して温湿度コントロールや定期的な殺虫処理などの対策を講じていくことを検討している。

(2) 温度・湿度データ管理の実施

保管状態把握のため、収蔵スペースの温度と湿度を継続的に計測している。昨年度に引き続き、今年度も3階と7階の資料収蔵スペースに温湿度データロガーを配置し、年間を通じた温度と湿度のデータを保存した。年間を通じた計測結果に基づいて、空調設定を変更するなど、3階展示フロアおよび収蔵庫の温度・湿度の安定化を図っている。また、3階展示フロアに収蔵している保存箱内に、湿度を安定させるため、調湿紙を導入している。今年度は、これまで計測してきた温度・湿度データの結果に基づいて、家庭用除湿器を7階に5台設置し、夏から秋にかけて稼働させ、湿度の安定化を図った。

(3) 脱酸処理

資料室では、利用頻度が高く、特に劣化の進行が速い新聞資料の脱酸処理を行っている。今年度は、1995年7月～9月に発行された新聞の処置を行った。

(4) 収蔵資料管理

収蔵資料の管理業務を円滑化するため、データベース・システムの入れ替えを行った。

2 音声資料の媒体変換の実施

当センターで所蔵している音声・映像資料のほとんどは、作成されてから5年以上が経過しており、音声・映像の劣化が懸念されている。そのため、音声・映像資料のデジタル媒体変換を順次進めている。

昨年度から開始したVHSテープ、8mmディスクで記録されている映像資料のデジタル化のうち、公開判別を「公開可」としている全177本のデジタル変換が完了した。

3項 震災資料の利用

1 閲覧

「公開判別」で、「公開可」および「条件付可」とされた一次資料は、閲覧申請を経て即日資料室内で閲覧することができる。なお、「公開可」とされた資料は実物を出納している。「条件付可」とされた資料は、専門員が複写の上、プライバシー情報を保護して出納している。

平成 25 年度の一次資料の閲覧申請件数は、23 件、3085 点であった。主に大学教員や学生、研究者等による研究・調査に活用された。また、特別利用申請件数は、1 件で、研究・調査に関連する目的のものであった。

2 複写・撮影

平成 25 年度の複写件数は 9 件、撮影件数は 1 件であった。複写の対象となる資料は主として紙資料と写真資料が多い。大学教員や、学生・大学院生などによる研究目的での利用を目的としたものであった。

3 貸出

防災を普及するという目的に限り、今年度も兵庫県広報課の写真や、一般から提供された写真をデータ化して貸出を行った。貸出写真は出版物に活用された場合、成果物を二次資料として資料室で受け入れることもあるため、貸出が資料収集活動にも繋がっている。貸し出した写真資料は、地方自治体が作成する防災パンフレット、広報紙、展示パネルなどに活用された他、テレビや新聞をはじめとしたメディアにおいて、阪神・淡路大震災関連や防災関連の特集などで使用された。

4項 二次資料（図書等刊行物）の収集

二次資料とは図書・雑誌・ビデオ等視聴覚資料などを指す。

(財)21 世紀ひょうご創造協会、(財)阪神・淡路大震災記念協会から引き継いだ約 23,000 点の震災関連資料に加え、阪神・淡路大震災関連や、その他の災害（地震・津波など）の資料、防災関連の資料、その他資料室として必要な参考文献について収集している（参考資料 6-(3) を参照）。

平成 25 年度は、改めて阪神・淡路大震災に関する図書資料のほか、利用者からの要望の多い防災マニュアル・ガイドブックの収集に力を入れた。また、東日本大震災の被災自治体の作成した記録誌も収集した。

Ⅱ章 資料収集・保存

2 節 資料室における相談業務・情報発信

1 項 相談業務の意義

資料室への相談は、来室者に情報提供を求められるケースもあった。その一方で、特に自分が住む地域に留まらず、電話や文書、ときにはメールの形態をとって寄せられる。

資料室開設以来の相談件数は累計 2,000 件を超え、相談者の相談内容も多岐にわたっている。特に近年の動向として、相談者の専門分野における高度で詳細な資料の提供を希望するケースが漸増し、今年度は海外の災害についての活断層地図の閲覧をはじめとして、家具の転倒防止に関する資料など、各種団体及び個人からの災害対策、防災・減災についての相談も多かった。

また、今年度は、一昨年度及び昨年度に多かった東日本大震災に関するものがやや減少した一方で、阪神・淡路大震災に関する質問が目立った。具体的には、阪神・淡路大震災における具体的な被害や復旧・復興過程を質問するものが多くを占めた。この傾向は、東日本大震災の発生から時間が経ってきていることや、阪神・淡路大震災の発生から 20 年という節目が近づいていることとも整合的であった。これに加えて、近い将来起こるとされている巨大地震に関して、国や地方自治体での議論や被害想定などが繰り返し報道される中で、一般の方からも相談が寄せられた。特に、ハザードマップや家具の固定方法に代表されるように、生活に密着した事柄に関するものが多数であり、これらの点は昨年度と同じであったが、今年度は高齢者等に関わる施設や団体からも一般と同様の質問がいくつか寄せられた。

このように、市民にとって身近な問題から高度で専門的なものまで、年間を通じて寄せられる多くの相談に対して、きめ細かく対応することは、阪神・淡路大震災の教訓を発信することを一つの使命とする人と防災未来センター資料室にとって非常に重要な意義がある。

そのため、資料室スタッフの特性を活かし、図書や資料、インターネット等による従来の手順の情報提供はもちろん、他機関等との連携も併せて行い、的確に相談者に提供することが、より一層求められる。資料室では、過去の相談業務の内容をデータベース登録することにより、同様の質問に迅速かつ効率的に対応できるようにしている。

2 項 相談業務の主な内容、相談項目

1 相談者地域

相談者地域別内訳は、近畿地方が最も多く、東北地方や九州地方もあった。

2 相談者内訳

昨年度の相談者内訳では、個人からの質問が最も多かったが、今年度は自治会等を含む各種団体からの相談が最も多かった。相談者からは、報道などで近い将来起こると報道されている南海トラフでの巨大地震や東日本大震災とも関連づけて、阪神・淡路大震災を中心とした地震防災全般に関する情報提供を求める傾向があり、各種団体からは阪神・淡路大震災時における町内会等に関する情報提供を求める傾向がみられた。

3 相談内容

相談内容としては、1項で述べたように、阪神・淡路大震災の規模や被害、想定される巨大地震に関する相談が多かった。個人からは地元地域のハザードマップや自主防災マニュアルに関するものが目立った一方、地震の揺れと建物被害に関する専門的な質問や海外の災害に関する質問もあり、多岐に及んだ。研究教育機関からの相談では、避難誘導の手順や防災知識の普及方法、訓練の内容構成に関することを尋ねられることが多かった。具体的数値を求めるような質問は報道や行政機関からのものに目立った。

相談業務（平成 25 年度分 No.1996 ～ 2027）

相談者住所内訳

地 域	人 数
北海道・東北	2
関 東	3
信 越・北 陸	0
東 海	0
近 畿	16
中 国	1
四 国	0
九 州・沖 縄	1
海 外	0
不 明	9
計	32

相談業務相談者内訳

種 類	人 数
行 政 関 係	2
研 究 教 育 機 関	4
報 道 関 係	5
企 業	1
各 種 団 体	7
個 人	5
外 国	0
当 セ ン タ ー 内	5
そ の 他（医療関係など）	3
計	32

相談業務相談内容内訳

相談内容	件 数
阪神・淡路大震災関連（被害状況、復興状況、東日本大震災との比較など）	21
その他災害（地震・火山・台風など）について	2
外国の災害について	2
防災関連（防災教育、防災訓練など）	6
建築関係	1
活断層について	0
地震全般について（メカニズムなど）	0
当センターについて	0
資料室の資料貸出に関することについて *ただしビデオ貸出は除く	0
寄贈についての質問	0
医療関連	0
その他（詩や CD などの質問も含む）	0
計	32

3項 ビデオ・DVD の貸出

営利を目的としない防災学習等に限り、学校・団体等へのビデオ・DVD の貸出を行っている。現在ビデオ 22 本と DVD31 本を貸出用としており、平成 25 年度は 131 件 (232 本) の貸出を行い 19,695 人が視聴した。

貸出先

貸出先別	件 数	本 数
学校関係	78	138
行政関係	5	8
団 体	28	53
企 業	17	29
その他 (病院など)	3	4
計	131	232

1 貸出先

貸出は学校関係が最も多く、地震についての防災教育や阪神・淡路大震災についての学習資料としての使用が目立つ。そのほか、町内会や自主防災会での自主的な防災学習への利用も増加している。

2 貸出地域

地域別の申込では、近畿地方が圧倒的に多く、全体の約 71% を占める。続いて関東地方 (全体の約 13%)、東海地方 (全体の約 6%) となっている。今年度も昨年度までと同様に近畿地方からの貸し出し申込が最も多く、関東地方や東海地方がこれに次ぐ結果となった。

3 貸出ビデオ

貸出用映像記録の中で貸出回数が一番多かったものは DVD『ビジュアル版 幸せ運ぼう [中学生以上]』である。この作品はもともと震災学習用に作成されているため、細かいチャプターに分かれており、目的に応じて映像を選んで構成できる。また付属の CD-R に副読本や震災当時の新聞記事、写真などが入っており、広く防災教育に活用できるようになっている。他には、救命活動の限界といわれる震災直後 72 時間に、消防・自治体・警察・病院等がどのように対処したのかを簡潔に 30 分でまとめたビデオ『震度 7 阪神大震災の教訓 ドキュメント神戸 72 時間の記録』や、今後の地震対策として『防災の備えと意識 10 カ条』の貸出も多かった。これに対し、東日本大震災に関連した DVD の貸出は相対的に減少し、利用者の関心が東日本大震災そのものから、より身近な防災・減災へと移りつつあるものと思われる。

4項 情報発信

1 ホームページおよびインターネット検索について

平成 17 年度に開始したインターネット検索は今年度も引き続き運用されている。一次資料については、資料によっては画像が閲覧できる。特に写真資料の画像がインターネットで閲覧できることは遠隔地での貸出申請の際に非常に役立っている。その際、一次資料

を検索した際にそれぞれの資料の資料番号が表示されるため、貸出申請や問い合わせにスムーズに対応可能である。また、二次資料は書誌データの他、目次等も表示し、資料の内容を推測しやすくしている。

そして、センターホームページ内の資料収集・保存のトップページでは、お知らせ欄を設け、現在資料室で開かれている企画展や資料室ニュース最新号の情報などを発信した。



＜インターネット検索画面＞



＜ホームページ画像＞

2 資料室ニュース

資料室では、平成 15 年 4 月から資料室ニュース（見開き 4 ページ）を発行してきた。

平成 25 年度は各号ごとに特集テーマを企画し、年 3 回各 2,000 部発行した。紙面の内容は、特集テーマに関する当センター所蔵の震災資料や図書の紹介、また、資料室に関する最新情報などである。

資料室ニュースは、資料室や西館 1 階ロビーで配布しているほか、センターホームページからもダウンロードできるようにしている。

資料室ニュース URL：<http://www.dri.ne.jp/shiryo/news.html>

○今年度の特集テーマ

- ・「資料室の新たな取り組み」（2013 年 8 月発行、Vol.51）
- ・「様々な『かたりつき』のあり方を考える」（2014 年 2 月発行、Vol.52）
- ・「いま、撮影する『阪神・淡路大震災』－『震災を追体験する』方法として、定点観測写真を考える－」（2014 年 3 月発行、Vol.53）



Vol.51



Vol.52



Vol.53

Ⅱ章 資料収集・保存

3節 震災資料の活用

1項 震災資料を活用した企画展

平成 25 年度は、資料室企画展として、阪神・淡路大震災の被災地の定点観測写真展を行った。

企画展「いま、撮影する『阪神・淡路大震災』－『震災を追体験する』方法として定点観測写真を考える」（開催期間：平成 25 年 12 月 17 日～平成 26 年 3 月 2 日）を、西館 2 階の防災未来ギャラリーで行った。本企画展では、震災当時 71 歳で自宅と住み慣れた神戸のまちなみを失った故・大仁節子氏が撮影した神戸の定点観測写真から、神戸の中心地・三宮・元町のある神戸市中央区と、彼女の住まいのあった神戸市東灘区森南町、計 49 カ所を展示した。また、今回改めて、立命館大学減災×学びプロジェクトとともに行った「定点観測撮影会」を通じて撮影された同場所の現在の写真も展示した。



〈企画展：いま、撮影する「阪神・淡路大震災」－「震災を追体験する」方法として定点観測写真を考える〉

2項 企画展関連行事の実施

企画展「いま、撮影する『阪神・淡路大震災』－『震災を追体験する』方法として定点観測写真を考える」の関連企画として、平成 26 年 2 月 1 日にトークイベント「震災を伝える方法を考える－大槌・仙台・神戸 定点観測写真ミーティング」を行った。

トークイベントでは、本企画展で撮影を行った、当センター資料室と「立命館大学減災×学びプロジェクト」が撮影までのプロセスや撮影時に感じたことなどを報告した。また、同じ「定点観測写真の撮影」という活動を通して、震災の記憶を伝える試みをしている「大槌町定点観測プロジェクト」と「NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台」を迎え、岩手県大槌町、ならびに宮城県仙台市の定点観測の現状を共有し、これからの活動のあり方について、議論を深めた。

トークイベント報告者

【大槌町定点観測プロジェクト】

近藤民代（神戸大学工学研究科准教授）

川上翔（神戸大学大学院生）

【NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台】

佐藤正実（同法人 副理事長）

【立命館大学「減災 × 学びプロジェクト」 + DRI 資料室】

山口洋典（立命館大学サービスラーニングセンター准教授）

新林孝介（立命館大学大学生）

菊池純弥（立命館大学大学生）

山本晃寛（立命館大学大学生）

【コーディネーター】

高森順子（人と防災未来センター資料室）



〈トークイベント「震災を伝える方法を考える―大槌・仙台・神戸 定点観測写真ミーティング」〉

3項 防災学習用ワークシートの改訂

資料室では、次世代を担う子どもたちの防災学習をより一層進めるために、防災学習用ワークシートを作成している。対象は小学3年生以上である。

平成24年度は、東日本大震災やその後の議論等を踏まえて「No.3 津波ってどんなもの？」等を改訂することとなった。さらに、近年の気象災害や地球温暖化などに対する社会的関心の高まり等から、「No.5 気象災害への備え」を新たに作成し、ワークシートをNo.1からNo.5の5種類にすることとなった。

平成25年度は、さらに利用を拡充させるため、これまでのワークシートの解説部分の充実を図り、「災害学習ノート」として冊子化した。

4項 ぼうさいみらい子ども文庫

平成22年1月9日、震災の経験と教訓を次代に伝えるため、国際ソロプチミスト神戸より寄付を受け、「ぼうさいみらい子ども文庫」を開設した。児童向けの絵本、カルタ、ビデオ、防災体験ゲーム等を用いて、震災や防災を学べるよう工夫している。

（詳細は、参考資料6-(1)を参照）



II 章 資料収集・保存

4 節 資料を通じた交流・ネットワーク

1 項 他機関との連携事業

今年度資料室では、他機関との連携による事業を実施し、震災資料の利活用促進を図った。

1 資料の横断検索システムの活用

資料室では平成 21 年 1 月より、資料室収蔵資料と神戸大学附属図書館震災文庫収蔵資料の横断検索システムをホームページ上で公開している。現段階では、資料室収蔵資料のうち図書資料を検索対象としている。今年度も資料室で新規に受け入れた図書資料のデータを更新し、新たに 592 件のデータを登録した（総数 38,086 件）。今後も震災資料利用者に横断検索の利用方法を伝えるなどして、さらなる利用者の増加を目指したい。

震災資料横断検索 <http://www.lib.kobe-u.ac.jp/eqb/crosssearch.html>



<震災資料横断検索画面>

2 項 震災資料専門員による講義

神戸学院大学での講義

主 催：神戸学院大学

実施日：平成 26 年 1 月 9 日（木）

テーマ：「震災資料の収集・保存と活用」

担当者：吉原大志、高森順子（震災資料専門員）

神戸学院大学防災・社会貢献ユニット開講の「防災論 I」の 1 講義を担当した。講義では、センター所蔵資料の収集経緯や資料の概要を伝えるとともに、資料の様々な活用事例を報告した。特に、当センター資料室で行ってきた資料集の刊行や展示など、震災 20 年を迎えようとする近年に行ってきた活用の実例を紹介し、今後の震災伝承について議論を深める場を設けた。

ぼうさい出前授業

主 催：毎日新聞社、人と防災未来センター

実施日：第 1 回 平成 25 年 11 月 19 日（火）

第 2 回 平成 25 年 11 月 21 日（木）

第 3 回 平成 25 年 12 月 3 日（火）

場 所：第 1 回 貝塚第五中学校（大阪府） 参加者 約 180 名（全校生）

第2回 松洋中学校（和歌山県） 参加者 約60名（1年生）

第3回 北島中学校（徳島県） 参加者 約200名（1年生）

テーマ：「クロスロードをやってみよう！」

担当者：矢守克也（震災資料研究主幹、第1回）、石原凌河（震災資料専門員、第1～3回）、高森順子（震災資料専門員、第1・2回）、吉原大志（震災資料専門員、第1・3回）

毎日新聞社と当センター主催の「ぼうさい出前授業」での講義を担当した。講義では、ゲーム形式の防災学習「クロスロード」の方法と目的を説明したうえで、阪神・淡路大震災だけでなく東日本大震災における事例を踏まえながら、実際に「クロスロード」を通じた災害対策について考える時間を設けた。

3項 震災資料の研修会・研究会

資料室では、震災資料に関する研究会等において、資料室業務の課題および震災資料の活用に関する発表を行い、他機関との交流を図っている。

（1）「災害ミュージアム研究塾2013」

主 催：人と防災未来センター研究部・資料室

協 力：神戸市立地域人材支援センター

昨年度に引き続き、各地の災害展示や資料保存の取り組みについて議論する「災害ミュージアム研究塾」を開催した。今年度は、東日本大震災被災地の美術館における取り組みに関する報告のほか、当センターの研究員・震災資料専門員による研究報告を行った。各回の内容は以下の通り。

- ・第1回 平成25年9月14日（土） 参加者 約20名

テ ー マ：「災害ミュージアムができるまで」

担 当 者：村田昌彦（人と防災未来センター研究部長）、阪本真由美（人と防災未来センター主任研究員）

実施場所：人と防災未来センター ガイダンスルーム2

- ・第2回 平成25年10月5日（土） 参加者 約20名

テ ー マ：「共有するための展示」

担 当 者：山内宏泰（リアスアーク美術館学芸員）

実施場所：人と防災未来センター ガイダンスルーム2

- ・第3回 平成25年11月16日（土） 参加者 約20名

テ ー マ：「防災集団移転と住民生活」

担 当 者：渡邊敬逸（人と防災未来センター研究員）

実施場所：人と防災未来センター ガイダンスルーム2

- ・第4回 平成25年12月8日（日） 参加者 約40名

テ ー マ：「災害の記憶の忘却を防ぐことはできるのか」

担 当 者：佐藤翔輔（東北大学災害科学国際研究所助教）、山崎麻里子（長岡震災アーカイブセンターきおくみらい研究員）、矢守克也（人と防災未来センター震災資料研究主幹）、阪本真由美（人と防災未来センター主任研究員）

実施場所：神戸市立地域人材支援センター

- ・第5回 平成26年1月25日(土) 参加者 約30名
 テーマ:「手記集から読み解く「災害体験」」
 担当者:高森順子(震災資料専門員)
 実施場所:人と防災未来センター ガイダンスルーム2
- ・第6回 平成26年2月8日(土) 参加者 約20名
 テーマ:「災害の記録と伝承」
 担当者:宇田川真之(人と防災未来センター研究主幹)
 実施場所:人と防災未来センター ガイダンスルーム2
- ・第7回 平成26年3月15日(土) 参加者 約35名
 テーマ:「災害遺構を保存・活用する意味」
 担当者:石原凌河(震災資料専門員)
 実施場所:人と防災未来センター ガイダンスルーム

(2)「災害かたりつぎ研究塾」

主催:災害かたりつぎ研究塾実行委員会、東北大学災害科学国際研究所、長岡震災アーカイブセンターきおくみらい、人と防災未来センター

今年度は、各地の被災地を訪問し、被災地における資料の収集・保存に関わる実践的な活動や、これに関わる地域の方々からの語りを聞きながら、災害のかたりつぎについて合宿形式で学ぶイベント「災害かたりつぎ研究塾」を全3回にわたって開催した。各回の内容は以下の通り。

- ・第1回 平成25年8月9日(金)・10日(土) 参加者 約30名
 実施場所:宮城県石巻市・東松島市・名取市ほか
 視察地:「閑上の記憶」ほか、みちのく・いまをつたえ隊との交流
- ・第2回 平成25年11月2日(土)・3日(日) 参加者 約30名
 実施場所:新潟県長岡市・小千谷市
 視察地:中越メモリアル回廊ほか
- ・第3回 平成25年12月7日(土)・8日(日) 参加者 約25名
 実施場所:兵庫県神戸市
 視察地:人と防災未来センター、神戸市長田地域ほか

(3)「第14回 阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する研究会」

※「第3回 被災地の図書館と震災資料の収集・公開に係る情報交換会」と合同開催

主催:人と防災未来センター、震災復興支援・災害科学研究推進活動サポート経費(奥村弘)「災害資料学の実践的研究—阪神・淡路大震災の知見を基礎として」、阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する研究会、科学研究費補助金基盤研究(S)「大規模自然災害時の史料保全論を基礎とした地域歴史資料学の構築」[研究代表者:奥村弘]研究グループ

実施日:平成26年2月18日 参加者 約25名

実施場所:人と防災未来センター東館6階 第1・2会議室

昨年度に引き続き、震災資料の収集・保存・活用について考える「阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する研究会」を開催した。本年度は、「被災地の図書館と震災資料の収集・公開に係る情報交換会」との合同開催であり、神戸・阪神間のみならず東北地方の関

書館関係者が参加した。

参加機関は以下の通り（順不同）。

東北大学附属図書館、岩手大学情報メディアセンター図書館、宮城県図書館、岩手県立図書館、国立国会図書館、長岡市立中央図書館文書資料室、神戸学院大学、兵庫県立図書館、神戸大学、神戸大学附属図書館、西宮市、人・街・ながた震災資料室、人と防災未来センター資料室

4項 他機関によるセンター視察

資料室は、大学や各種団体などの他機関から視察を受け、震災資料の収集・保存について説明を行っている。また、資料の保存・活用など互いに抱える課題についての意見交換や阪神・淡路大震災に関する資料提供等の相談を受けている。

今年度は以下の団体からの訪問を受けた。

- ・立命館大学（平成 25 年 5 月 19 日）
- ・国立民族学博物館（平成 25 年 5 月 29 日）
- ・兵庫県立図書館（平成 25 年 6 月 11 日）
- ・NPO 法人みらいサポートセンター石巻（平成 25 年 6 月 21 日）
- ・桃山学院大学（平成 25 年 7 月 13 日）
- ・長岡市役所（平成 25 年 11 月 8 日）
- ・神戸女学院大学（平成 25 年 11 月 17 日）
- ・神戸大学（平成 25 年 12 月 6 日）
- ・東北学院大学（平成 25 年 12 月 15 日）
- ・千葉大学（平成 26 年 3 月 2 日）
- ・盛岡大学（平成 26 年 3 月 7 日）

5項 センターから他機関への視察

資料室では、直面している様々な課題を解決すべく関係機関の視察やセミナーへの参加を行っている。専門の職員との意見交換や、研究会などへの参加により、課題の解決方策の参考とした。平成 25 年度の活動は以下の通りである。

- ・リアスアーク美術館（平成 25 年 4 月 6 日）
- ・気仙沼市大島地区・鹿折地区、気仙沼市役所（平成 25 年 4 月 7 ～ 8 日）
- ・神戸大学附属図書館震災文庫（平成 25 年 4 月 24 日）
- ・長岡震災アーカイブセンターきおくみらい（シンポジウム「震災遺構を考える」、平成 25 年 6 月 29 日）
- ・宝塚市立中央図書館（兵庫県図書館協会主催地区研修会、平成 25 年 9 月 26 日）
- ・せんだいメディアテーク（平成 25 年 9 月 29 日）
- ・東京都慰霊堂・復興記念館（平成 25 年 9 月 30 日）
- ・神戸大学（震災資料フォーラム、平成 25 年 10 月 20 日）
- ・東北大学附属図書館、東北大学災害科学国際研究所（平成 26 年 1 月 6 日）
- ・宮城県図書館、岩沼市史編纂室（平成 26 年 1 月 7 日）